

令和6年1月6日(土)開催

令和5年度

櫛引地域コミュニティ検討ワークショップ (第4回櫛引地域振興懇談会資料)

一般社団法人とちぎ市民協働研究会
代表理事 廣瀬 隆人

1

グループワーク 1

2

今はみられなくなった「櫛引」の暮らし方を語ってください。

- 昔、食べていたけど、今は食べなくなったもの
- みんなが行っていた思い出深い「お店」
- 子どもの頃に遊んでいた場所
- 今はやっていない、地域の行事
- 子どものころの地元の行事の思い出

3

**市役所がすすめる
地域運営組織
(ちいき うんえい そしき)
とはいったいなんなのか**

4

自分たちの地域をより良く快適に、暮らしやすくするため、人のつながりを強めて、様々な困りごとを解決したり、未来を予測してあらかじめ準備しておいたりするために、地域の団体や企業、事業者、個人などが集まって、話し合い、地域のための活動する組織のことを「まちづくり協議会」「コミュニティ協議会」「地域振興協議会」などといいます。

総務省では、「地域運営組織」と呼んでいます。

5

これは法律で決められたものではなく、人口減少や高齢化などに困り果てた地域住民が自分たちで工夫して作り上げたものです。決められた名称や規則や約束ごとがあるわけではありません。**自分たちで決めます。**

ただし、各自治体が、設置を促したり、市民がつくりやすいようにガイドを作成したり、規則の例を示す場合もあります。

6

地域運営組織に対する考え方

①国(総務省)や市役所がつくれと言ってるからつくるというものではない。そもそも、だれも「つくれ」とは言っているわけではない。

各地で困っている地域はこんな組織を作つて対応していますよということだ。

②やり方はいろいろだ。地域ごとに多様な在り方をしても良いものだ。でもそれは地元に市役所の出張所をつくるということではないのだ。

③でも市役所はあとは勝手に自分たちでやれ、と言っている訳ではない。つくるのならば、知恵や仕組みを貸しますよ。一緒にできることは一緒にやろうねと言っているのだ。相談してね、できる支援はしますよということだ。

④自分たちの地元に合ったようなサイズや規模にしていけば良い。全てを一気にやるのではなく、できることからやればよいというものなのだ。

7

地域運営組織とはいったいどんなものなのか

総務省の説明

「地域運営組織とは、地域の暮らしを守るために、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織です。」

翻訳すると

まずは、地域の人たちが仲良く暮らすこと。そしてつながりや関係を今よりも強くすること。単なる知人から、助けあえる関係になっていく必要がある。いきなり課題解決はできないからだ。市民は論理や妥当性だけで動くわけではない。まずは地域の人たちが一緒に楽しむ、一緒に汗を流すという活動を経験して、少しずつ覚悟を決めて、困りごとを一緒に解決できるようにすることだ

8

地域運営組織の形はいろいろだ。

総務省の説明

地域運営組織の組織形態としては、協議機能と実行機能を同一の組織が合わせ持つもの（一体型）や、協議機能を持つ組織から実行機能を切り離して別組織を形成しつつ、相互に連携しているもの（分離型）など、地域の実情に応じて様々なものがあります。

翻訳すると

知恵を集めて、話し合いの場(寄り合い)は必ず必要だ。年寄りの知恵や経験のある人の声も聴いておきたい。同時に民主的な手続きや制度はきちんと整えておくことは必要だ。だから、その人たちが実際に運営する場合もあれば、実行する人々は別の組織に任せることもあるようだ。こうでなくてはならないというものでもないようだ。

9

名前も形もいろいろだ。

「地域運営組織」というのは、国が考えたしくみや制度ではない。地域でなんとかしていこうするところが似たような団体を立ち上げていると言ふことだ。名前もいろいろだ、なんら取り決めや制約はない。

「振興協議会」、「まちづくり協議会」、「地域づくり協議会」、N P O 法人など多様だ。定番はどうやらない。モデルを示しても良いけれど、地域ごとに独自につくる方が上手いきやすい。自分たちの地域や団体の様子をきちんと調べてできることを考える。でも最終的には、自分たちで何度も話し合い、大きさや規模を考えないとならない。責任を自覚したり、強い自治を求めているのではない。地域の人々が仲良く暮らしていくことだ。

心地よい人間関係をつくることから始める必要がある。

10

地域づくり活動をしている自治会関係者に言わせると

そんなものはいらない
俺たちはちゃんとやっている

その通りです

11

12

では、どんなふうに「地域行事」を進めていますか

これまで培っていた地元での信頼関係、昔ながらの人間関係、同級生、親類縁者、かつて行われていた地域の運動会、酒飲み、旅行、各種の行事によって、つながってきた人々との「つながり貯金」を使ってませんか。地域の人たちがうるさいほど何度も何度も一緒に活動してきた経験がある世代がまだ地域で頑張っている。

13

だから、
そんなものはいらない
おれたちはちゃんとやっている

それは、

皆さんのおかあさん、おとうさん、
おばあさん、おじいさんたちが
私たちのための残してくれた貯金で
はないのか

14

地域運営組織とは、
次世代に残すべき
私たちの世代がつながって生きてきた
という記憶と経験と知恵をつたえる
クレジットカードかもしれない

15

16

なぜ今、地域運営組織が必要なのか

17

住民税を納める国民は61%

住民税収めている人は6403万人。20歳以上の人口の61%である。39%の人々は最低限の税金すら納めることができない。

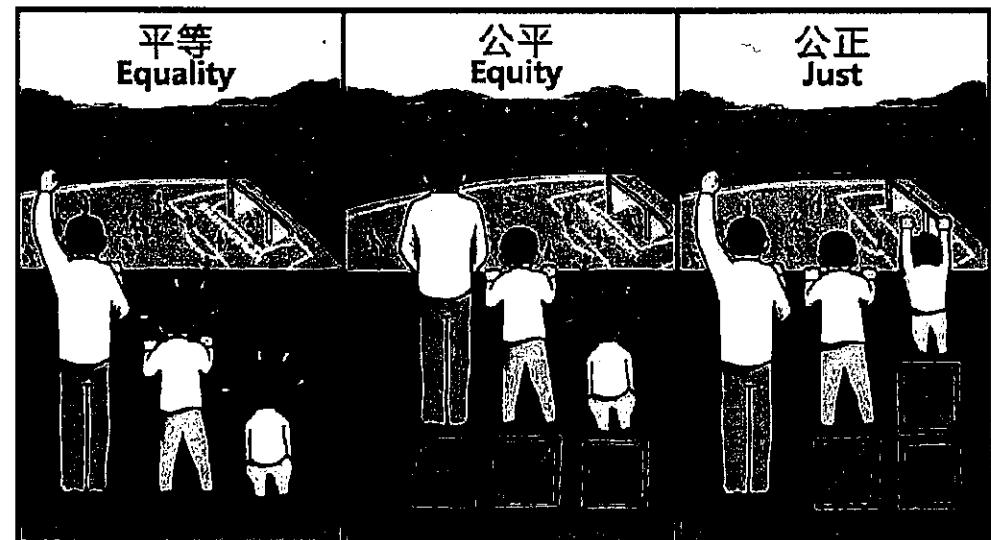
但し、この中には、専業主婦等の控除対象の配偶者が1,106万人、生徒・学生等の扶養家族が1,018万人が含まれる。生活保護の受給者は202万人程度で推移するが少なくとも1,800万人以上が低所得者ということが理解できる。全国に90万人以上いるといわれる自治体の会計年度任用職員も貧困層を拡大させている。

<https://facta.co.jp/article/202211019.html>

18

地域づくりに
公平や平等はない。
あるのは
公正だけである。

19



https://desktopnotificationstech.com/rkz9ubsZFN4_fykhRX9D1tgaFPY5ttal30vojT8QrdY/?clck=0d77569837c9d60c71496bef3cc5e96a&sid=16233258

20

人口減少も地球温暖化も 予想をはるかに超えるスピードで 全てが前倒しで進んでいる。 われわれの世代はどうやら 逃げ切れないようだ

21

これをどんな姿にするのか①

- 自分のことだけでなく、地元に住む人々のことにも心にかけよう
- お金にならないことでも、地元のためになることをしよう
- 役所に頼らないで、自分たちでできることを始めてみよう
- 高齢者や生きづらさを抱える人たちのことも考えていこう
- 地元で助け合って暮らして行こう
- 参加しない人にも排除せず、何度も声をかけていこう
- お互い様の人間関係をつくりていこう

という人々をつくること、これがひとづくり

地域の現状

- コロナ感染防止で、何も考えず中止する心地良さの危険
- コロナで交流が消滅し住民がまとまる力を失っている
- 自分さえ良ければよいという風潮が広がる
- 人手不足で仕事が過重になり、地域に手が回らない
- 町内会費の納入もままならない住民が増加
- 行事をやってもいつも集まるのは同じ人だけ
- 親子がともに過ごす時間が極端に減少した
- 子育て世代が地域行事に参加しない傾向
- 地域の行事が極端に減少した

22

これをどんな姿にするのか②

- 地域で行事へ新しい参加者が増える、それもお手伝いする人、準備する人が増えてくる。
- 一人がいろいろな団体やサークルに入っていて、週末は少し忙しくなり、新しい知人や友人が増えてくる。
- 近所の人が訪ねてくる、食べ物を届けに来る、届けに行くようになる。
- 顔を出す、立ち寄る、挨拶する、以前のお礼を言う、些細なことでも連絡し確認する、「元気でいたかい」と何気なく、安否を確認するそして、「わざわざ来なくてもいいのに」と言われるようになる。
- あの人に会いたいと思う人がたくさんいる。

という、現象が多くなるこれが地域づくり

23

24

中学生のアンケートを見てみよう

グループワーク2

どんなことに気が付きましたか
グループで話をしてみよう

25

26

では、どうしたら良いのだろうか

○どう考えても、無駄に見える分厚い「町史」「市史」と高齢者の口ぐせの中に、知恵が埋め込まれている。

○そして、地元で行ってきた様々な「民俗的営み」の中に賢く暮らす工夫が見て取れる。深く潜行したした知恵と知識が刻み込まれている。

民俗的営みとは

お盆、正月の行事、地域の季節行事、郷土芸能、地域だけにしかみられない風俗、行事食、暮らし方、ふるまい方、言い伝え、昔話、伝承など

地元の知恵に学ぶ(ローカルな知)

だから、私たちは平時でも忘れないように、「楽しみ」をくっつけて、「どんど焼き」、「餅つき大会」、「お庚申さん」、「二十三夜」、「直会」、「地蔵講」という行事を連綿と続けてきた。何故それをしているのかがわからないくらい習慣化した、それは「文化」になったということだ。文化になると近代的合理性のターゲットになる。
(意味ないから、やめよう流れやすい)

27

28

「言い伝え」「年寄りのくちぐせ」「くり返し語られる過去の体験」(じいちゃんまたその話かよ、百万回聴いたよ)
という「伝承」。人生の最後の任務?

「くちぐせの例」

「火事があったら、男は見に行け、女は米研げ」

「飲み会やんないと話になんないんだよ」、地元の高齢者の口ぐせの中に「防災の知恵」「ひとがつながる知恵」が埋め込まれている。そうした知恵をちりばめた地域固有の防災計画をつくって次の世代に継承していく必要がある。(同時に性別役割分業を固定化する機能もあった)

29

民俗芸能、郷土芸能は、実は時代の変化に対応し、その所作や基本動作さえ、かえっている。変化することによって生き残っている。

要するに「新しいものを積極的に取り入れることによって生き残っている。(近代的合理性と戦っている)

(=安易にやめてはいかんということを伝えている)
石碑、昔話の伝承、地元の歴史を素材にした学校演劇、偉人の業績、歌、歴史散歩、まちあるきガイドブックなどの形で伝承される

30

石碑は何を伝えているのか

石碑は、地域内で相互に協力した、共同体の結束力を確認するために、みんなの力をあわせてそれを忘れず、後世に教訓として伝えていくという役割を果たしていた。

(参考『人々は疫病をどう乗り越えてきたのか』山形県生涯学習文化財団2022)

石碑は、電源もクラウドも用いない記憶装置、ハードディスクである。

31

自治会で何を進めたら良いのか。

「組内の行事」「新年会」「お茶のみ会」「老人会」「市民運動会への参加」「お隣同士のお茶のみ会」「組内の旅行」「井戸端会議」「おすそわけ」「自治会の交流」「花見や旅行」「隣近所でのお茶のみ」「友人との酒飲み」「よいとり」「お念佛行事」「庚申待ち」「近所への声掛け」「防災訓練」「自治会での酒のみ」「みんなでできる共同作業」
今までやって來たこと。今もやっていることを大切にすることが重要だ。

32

○地域で暮らすための大切な知恵や教訓、集団として生きていくための知恵を地域固有の言葉(方言)として、普及していった可能性がある。

○人がつながるための知恵、長時間集まって、個人情報の交換を行うとともに、飲食という「楽しみ」をもれなく付隨させて伝承している可能性がある。

33

相互扶助・助け合う民俗「ユイ」(結)

結は、つながりを持つ。関係を結ぶということ。

そこから、ムラで、特定の人とつながりを持つ。関係を結び、農作業などで、互いに労力を交換して助け合うこと。田植や刈取りなどで、互いに雇つたり雇われたりすること。また、その人。結合、共同などを意味し、地域社会内の家相互間で行われる対等的労力交換、相互扶助をいう。地方によってはイイ、ユイッコ、工工などとよばれ、また中国・四国地方のように手間換(てまがえ)、手間借(てまがり)と称する所もある。結は催合(もやい)とともにわが国の伝統的な共同労働制度の一つであるが、結における労力交換では、多くの場合、働き手として出動する個人の労働力の強弱はあまり問題とはされないが、一人前の人間が1日提供してくれた労力に対しては、かならず1日の労働で返済することが基本で、金銭や物で相殺することを許さない点に特徴がある。
<https://kotobank.jp/word/>

34

民俗行事にみるムラの相互扶助

借りた労力を必ず近日中に労力で返すことを原則とするユイシゴト、ユイッコ、イイユイと言う。5軒程度単位とした隣同士、組合、同族、水田面積が似通っている家同士で行われる。それを返すことをテマガエシという。田植えのテマガエシは厳格に行われた。家の者がテマガエシをできないときには、賃金で人を雇つて(カイデマ)でも返した。(栗野町町誌民俗編1982)

イイッコは、提供された分の労力を返すことを原則とする労働力の等価交換。限られた期間やらなければならない仕事や短期間に大きな労働力を必要とする仕事などで行われた。同じくらいの経営規模の農家同士で行われた。2・3軒から7・8軒の家同士で行われた。作業後には、風呂に入って貰つたりしてもてなしたり、サナブリでは一堂に会して飲食を共にした。(鹿沼市史民俗編2001)

35

地域づくりとは、
人のつながり、
知人や友人を増やす
活動である

36

地域づくりは、課題解決だ、主体形成だというけれど、その前に、仲間をつくることができるような「人」になる必要がある。だから、「地域づくりはひとつづくり」と言われている。

でも完全な人間などいない、人の頼りにされたり、つらいときに話をきいたり、きいてもらったりする中で、「人」はつくられる。そのときに、「学習」することによって、より安全で失敗の少ない人生を歩むことができるのだ。愚痴、悪口も必要だけど、ではどうしたら、良いのかを考え、**学ぶ習慣**をつけるのが「公民館」「社会教育」なのだ。地域づくりに学びは欠かせない。

37

人のつながりをつくるければ

- 高齢になって、1人暮らしでも安心して暮らしていく。
- 困りごと(地域課題)があっても地元の人たちが団結して、解決できるようになる。
- 災害の助け合いや、避難所生活も快適で元気でいける。
- 友人ならば、助けてくれと言われなくても助けにいける。
- 悩みを言える友人が多ければ、困りごとを解決できる。
- 助けられたり、助けたりという関係は、心や気持ちも安定させる。

38

様々な行事やイベント、お祭りをすれば

- 初対面の人と出会い、顔見知りになる
- 顔見知りは、再会によっては知人になる
- 知人は会話や協働によって友人になる
- 同じ苦労を通して、今までの友人とはより親しくなり、親友になる
- お互いに助け合う生活をするようになる

お互い様の人間関係ができる

39

人生は辛いことも苦しいこともある でも助け合って生きていくと

辛さは1/2になり
苦しさは1/3になるようだ
助け合う仲間が地元に多くいると
どうやら幸せになるらしい

40

助け合って生きていけば、

- 困ったことが起きても、助け合って支え合う。
- 地域の困りごとが解決しやすくなる。
- 孤独が解消されて、精神的に安定して暮せる。
- ものが届いたので、少しお裾分けしたりする。
- 行政への需要が減少する。
- 「自分たちのことは自分たちでできる」という自信と自治意識が少しずつ形成されてくる。
- 「見守り」と言われなくても、自然に気にかけるようになる。

41

例えば、地域福祉ってなにか

地域の課題を解決する取り組みの一つである。そのためには、地域のひと同士のつながりが大切で、

「見守り」「声かけ」「手助け」

などの支え合いや、地元の困りごと、悩みごとを
みんなで解決すること、

42

地域福祉といわれても

- 自分のことでせいいっぱいだからよその人の面倒なんてみられない。(自分さえ良ければ良い)
- 専門的な知識もないのに、とても手助けなんかできない
- プライバシーも、不審者だと思われても…。
- 面倒なことに関わり合いたくない
- お節介してトラブル巻き込まれたくない

43

でもね

- 大事にしている友人のことはほうとうけない
- 子供の頃に世話になった近所の年寄りのことは、見捨てる事はできない
- 一緒に汗を流した仲間が困っているときは、できる限りことしてやりたい
- よく知っているから、なんとかしてやらないとそれが地域福祉、「地域づくり」

44

インドでは、「人に迷惑をかけて生きているのだから、人のことも許してあげなさい」と教えてているようだ。<https://grapee.jp/657504>

自己責任という健康な富裕層の論理では、地域では生きていく不可以ない。

私も迷惑をかけないから、あなたもかけないでね。というメッセージになりはしないだろうか。

45

知らない人の手助けは、人だけ
友だちの手助けは、おたがいさま
知ってる人になれば、どうして欲しいのかが良
わかる。気心を知ることが必要になる。
**知り合い・友人を増やすことが
やはり大切なのだ。**

46

迷惑をかけて進める

- できるだけ多くの人々をかかわらせる、巻き込むことによって、責任と覚悟を自覚させること。
- 協力や支援をお願いしても意味はない。具体的にものを借りる、何かを担当してもらう、人を集めてもらう、共催に入つてもらう、金やものを提供してもらうという具体的なことを頼むこと。
- だれぞの世話になったと、大声で何度も言うこと。

汗かいて、恥かいて、頭かいて、進める

47

暮らしが「豊かになる」とはなにか

- 作っているものが、たくさん売れる。収入が増えること。
- 新しいものを見たり、聴いたりして、暮らしが便利になったり、いろいろなことができるようになり、楽しむことができること。
- 音楽、映画、読書、旅行、買い物、外出、観光、食事、料理を体験したり、出かけたりできること。
- 家が広い、駅が近い、コンビニが近くにある、ゲームセンターがある、公園がある、交通の便が良いという条件が整うこと。
- 新しい知識を得たり、新しい物を購入したり、情報を知ったりして、便利に快適になること。

48

日本各地の人里離れた場所に、なぜだかポツンと存在する一軒家。そこには、どんな人物が、どんな理由で暮らしているのか！？衛星写真だけを手がかりに、その地へと赴き、地元の方々からの情報を元に、一軒家の実態を徹底調査しながら、人里離れた場所にいる人物の人生にも迫っていく。1枚の衛星写真から、どのような人がどんな暮らしをしているのかに思いを巡らせる



<https://www.asahi.co.jp/potsunto/>

49

コンビニがある、スーパーがある、車がある、駅があるから幸せなのではない。山奥でも、近所に知り合いがいれば、幸せだ。「ばあちゃん、飯食ったか」とおかずを持ってきてくれるご近所さんがいれば、このさとは快適だ。どこにも行きたくない。死ぬまでここで暮らしたい。「今まで沢山の迷惑を受け入れてきた。だから、ほんの少し人の世話になんてても良いんだよ」

社協に頼まれて、見守りしてくれなくても、友だちがいつも声をかけてくれるから、幸せだ。(栃木県日光市栗山地区)

50

人は「もの」だけでは幸せになれない

心の「豊かさ」とは、

- 人と話をする機会が増えて、一緒に食事をしたり、お茶を飲んだりして、人と一緒にいる時間が増えること。
- 誰かに必要とされて、出かけたり、人前で話をしたり、人の話を聴いたりする時間が増えて、外にいる時間が増えること。
- 今の暮らしが「ありがたいことだ」と感謝する心や気持ちを持つこと。
- 自分が気遣う人がいること、自分のことを気遣ってくれる人がいる。
- 泣いたり、笑ったりしながら、過ごしていくふだんの生活

51

つながりづくりの戦略

52

類似性効果・類似性の法則とは何か

類似性の法則とは自分と中身や外見が似ていたり、共通点が多くたりすると親近感を持ち好感を抱きやすいという心理効果です。1965年、アメリカの心理学者、ドン・バーンとネルソンにより提唱されました。類似性の法則は「性別」「出身地」「学歴」「思想」「言動」などさまざまな属性に対して働きます。類似性の法則が働く理由をドン・バーンは合意的妥当化によるものだと説明していました。合意的妥当化とは他者からの合意や他者との一致を正しさの証明と考える傾向のことと言います。自分と属性やふるまいが似ていない人と一緒にいると、自分の意見を否定されるため不安になりますが自分と属性やふるまいが似通っている人と一緒にいると、自分の意見を肯定的に捉えてもらいやすいため安心し、相手に親近感を持つというわけです。

<https://fleeks.net/law-of-similarity/#1>

53

類似性（Similarity）とは、2人の見た目や経験、能力や性格などの特性が似ている度合いのこと指します。

この類似性が高いほど仲良くなりやすい心理が存在します。これは類似性の法則と言われます。この類似性の法則は、見知らぬ人同士が仲良くなるために役立つほか、特に長期的な人間関係を築いていくうえで大事だとされています。

ミシガン大学の社会心理学者であるセオドア・ニューカム博士は1961年の研究で、人間関係が親密になっていく過程を追跡調査した結果、お互いの基本的なものの見方や考え方方が類似していること（態度や価値観の類似性）が長期的な人間関係において特に重要な要因であることを発見しました。テキサス大学のドン・バーンとドン・ネルソン博士らがおこなった1965年の研究では、2人の態度や価値観の類似性が高いと仲良くなりやすくなる心理的な理由として、次の3つを挙げています。

- 自分の考えの正しさが確認できるため安心感が得られるから
- 相手の理解が容易であるため衝突することが少ないので
- 相手と自分とを一体的に感じやすくなり自己愛的な気持ちが生まれるから

<https://kruchoro.com/similarity/>

54

地域づくりとは人と人をつなげること。
そのためには、

接着剤が必要である

人をつなげる接着剤＝社会教育・公民館
接着方法としての
行事、祭典、講座、セミナー
接着剤としての
趣味、教養、娯楽、地域課題

55

56

接着剤の主な成分
楽しい うれしい 心地よい
面白い 食べる 飲む 共通
美味しい 健康 歌舞音曲
困っている 懐かしい 学校

57

文化財、芸術文化、食習慣
などは、住民共有の財産で
あり、シンボルとなる。
まずは探し物から(地域学)

58

戦略展開のヒント

- 暮らしの中に、人があつまるヒントがある。
- 歴史の中に、課題解決のヒントがある。
- 文化の中に人の心を統一するヒントがある。
- ふつうの暮らしの、当たり前の中に、驚きと発見がある。
- 地域の中に宝の山、モノもヒトも大切な資源がある。

59

知り合いを増やす方法

- 声をかけること。
- 誘うこと。待つ。

断れたら、どうしよう
何かの勧誘だと思われたらどうしよう
家族に不審者だと思われたらどうしよう

60

何からはじめるのか

**地域づくりは人が集まり、語り合うことから
はじめります。**

新しい知識や情報の取得に意欲的で、社会や地域の課題に関心を持ち、何とかしたいという思いを持つ人が増えれば、いろいろなところで協働が生まれる。

たくさんの無駄話が資源である

61

人を知ること

相手の個人情報(資源)をたくさん知る。

今の仕事、得意な分野、好きな活動、だれの友だちなのか、家族構成は、所属している団体、好きな食べ物、自慢にしていること、かつてどんな仕事をしていたのか、趣味は何か、特技は何か、持っている資格などなど

訊くのではなく、対話の中で情報共有する

62

だから、

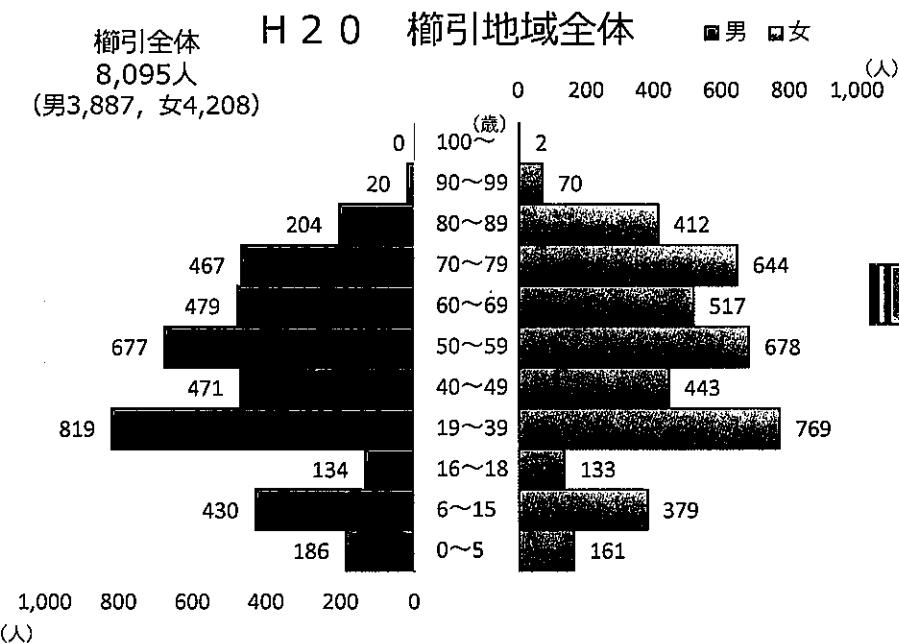
**講座やセミナーが終わったら、
すぐ帰らずにだらだらと、人と話をする、その後、
お茶を飲みに行く、
そして、酒を飲む約束をする、一緒に別の講演会
に行く約束をする。**

そして、誘われたら断らない

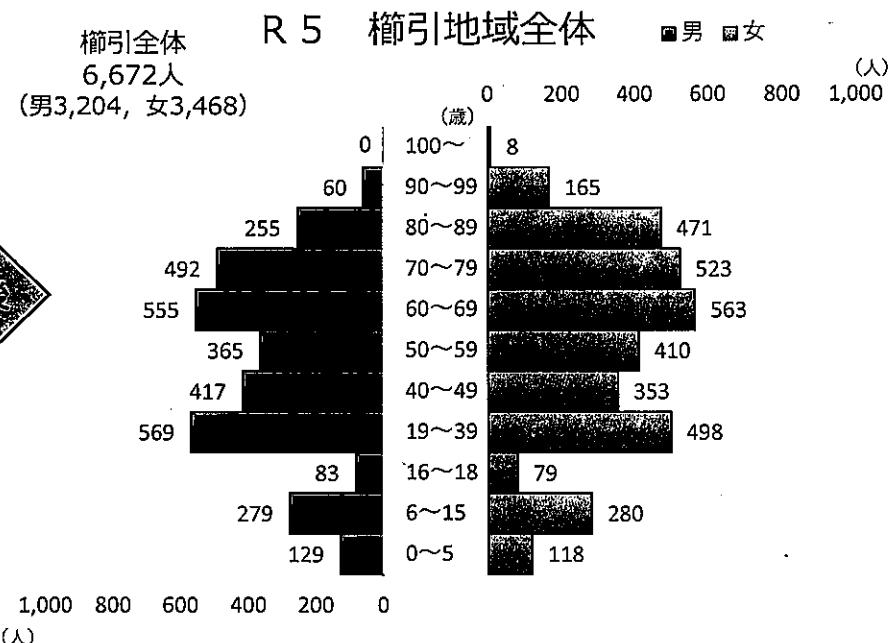
63

櫛引の高齢者数・年代別人口数の推移

資料No.1-2

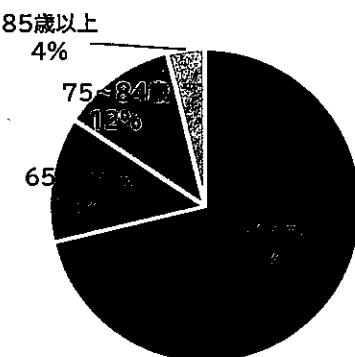


15年後

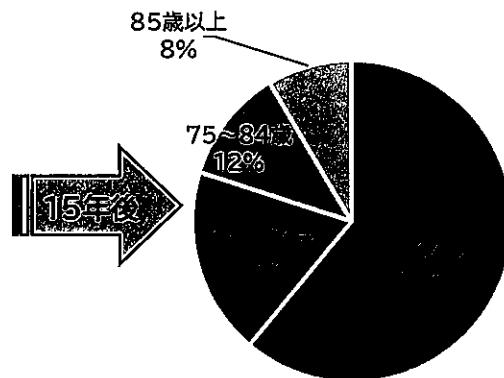


	2 0 0 8 (平成20) 年			2 0 2 3 (令和5) 年		
	男	女	全体	男	女	全体
高齢者数	913	1,413	2,326	1,097	1,498	2,595
高齢者率 (%)	23%	34%	29%	34%	43%	39%
前期高齢者 (65~74歳) 率(%)	446	600	1,046	610	648	1,258
後期高齢者 (75~84歳) 率(%)	393	574	967	323	446	769
後期高齢者 (85歳以上) 率(%)	74	239	313	164	404	568

2008 (平成20) 年高齢者の割合



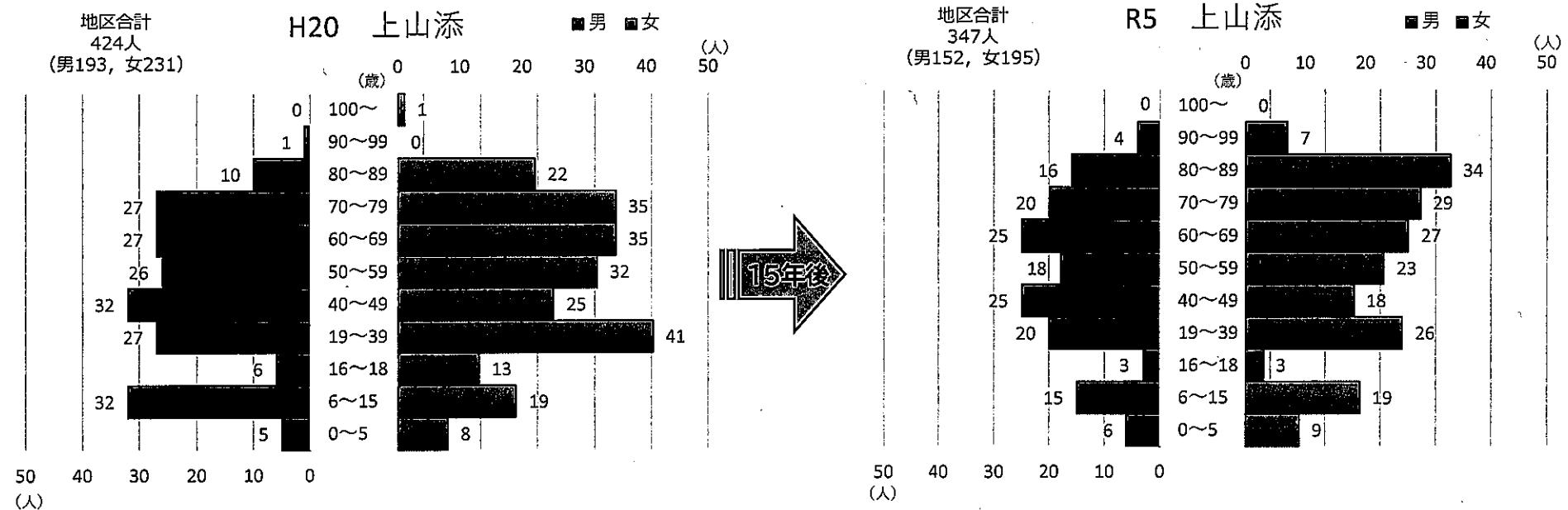
2023 (令和5) 年高齢者の割合



15年後

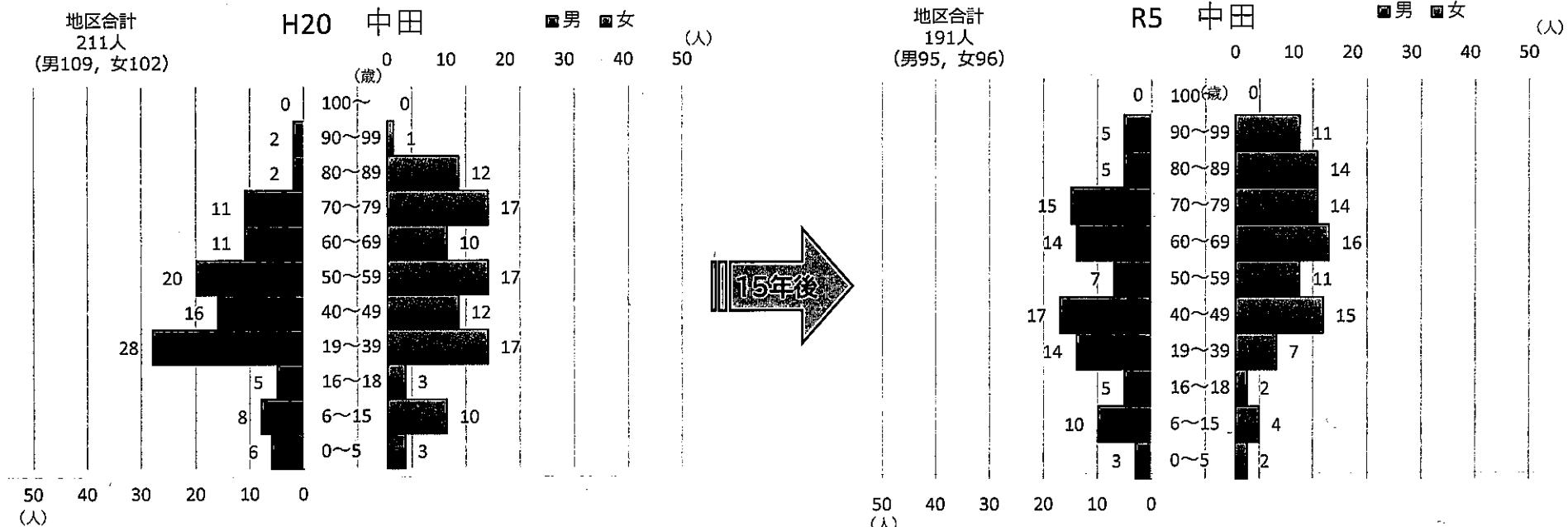
上山添地区の年代別人口数の推移

令和5年3月末現在



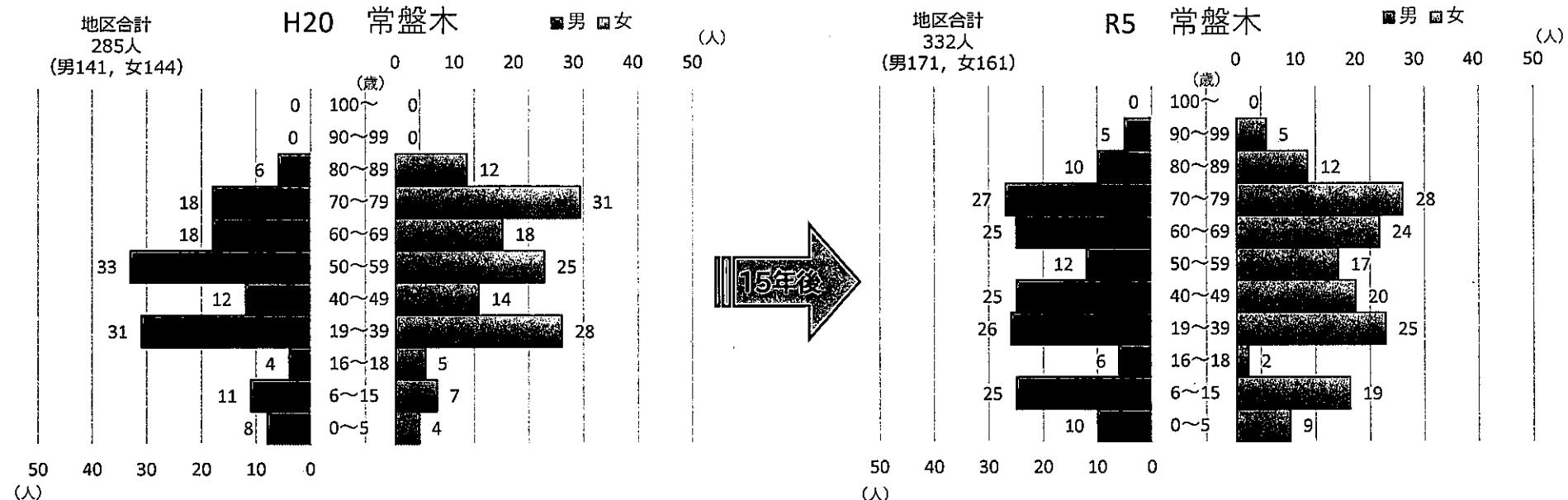
中田地区の年代別人口数の推移

令和5年3月末現在



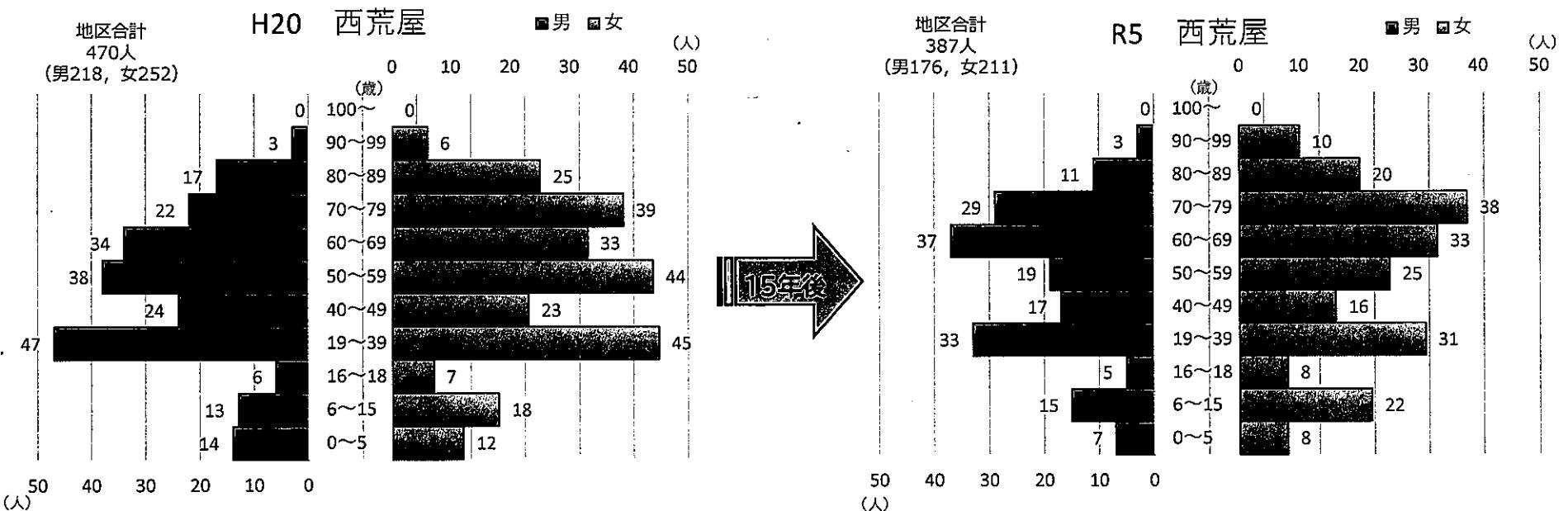
常盤木地区の年代別人口数の推移

令和5年3月末現在



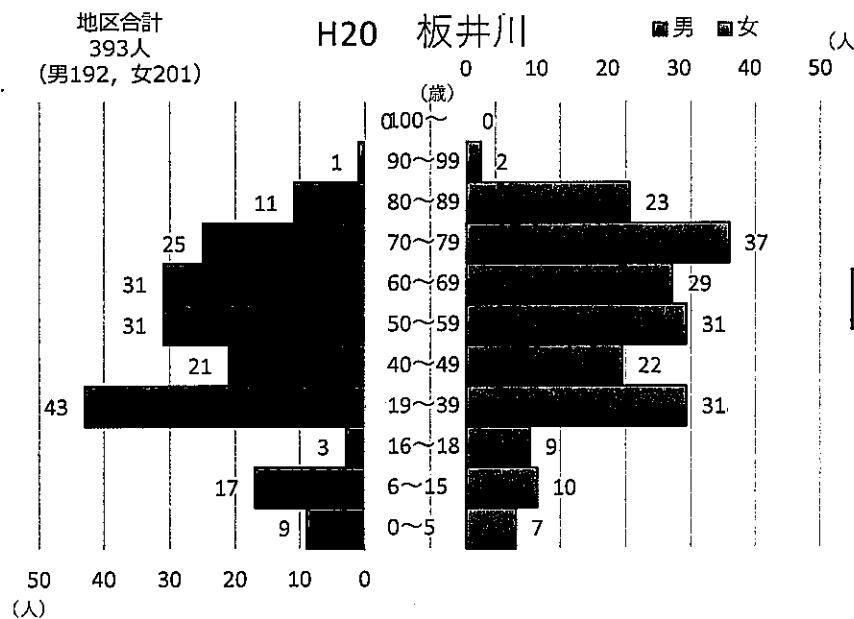
西荒屋地区の年代別人口数の推移

令和5年3月末現在

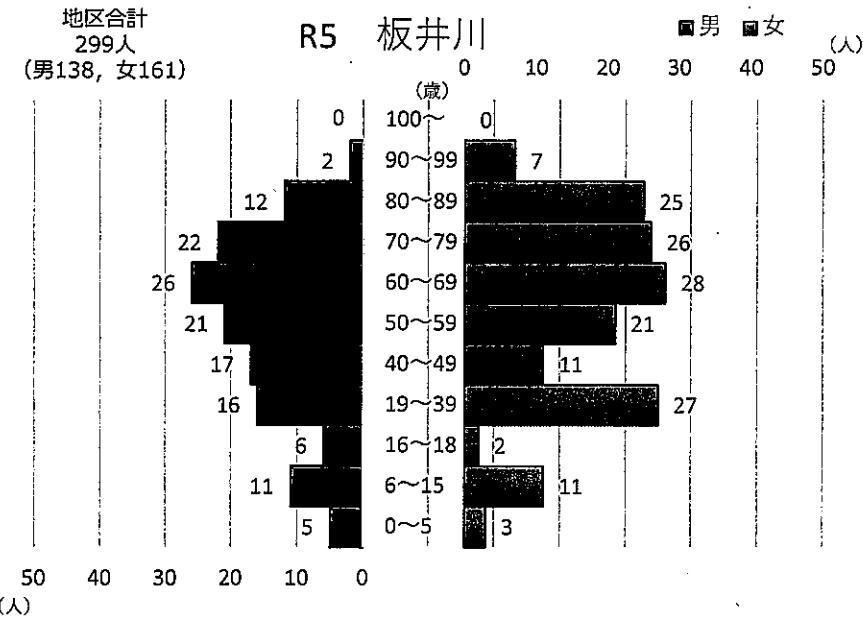


板井川地区の年代別人口数の推移

令和5年3月末現在

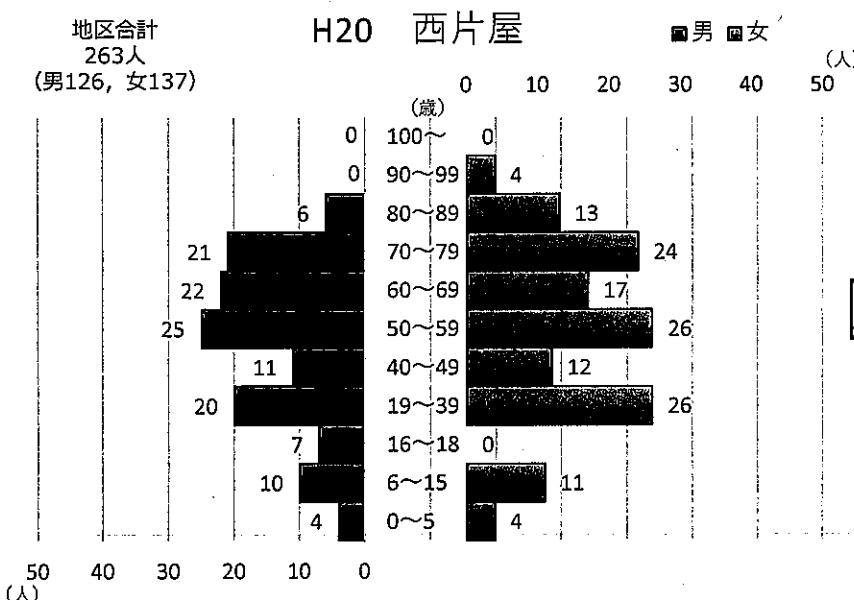


15年後

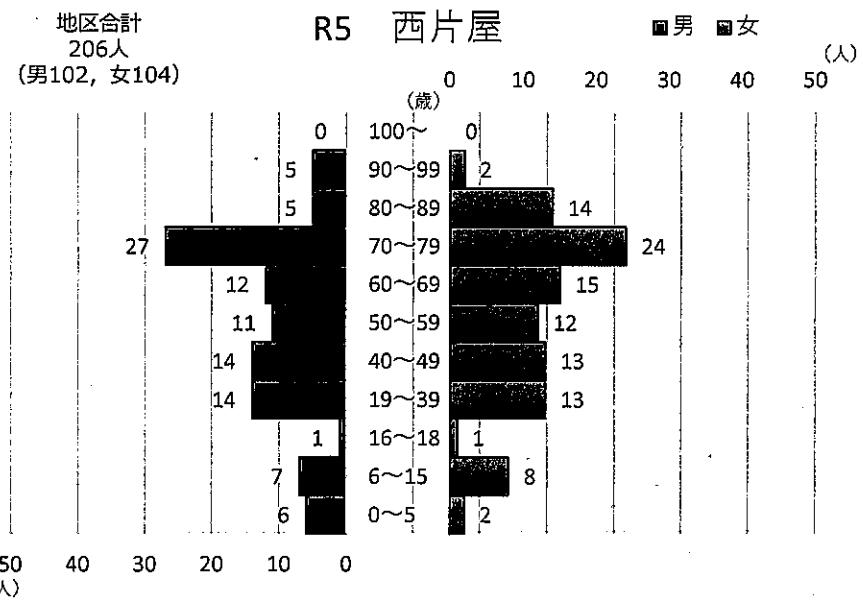


西片屋地区の年代別人口数の推移

令和5年3月末現在

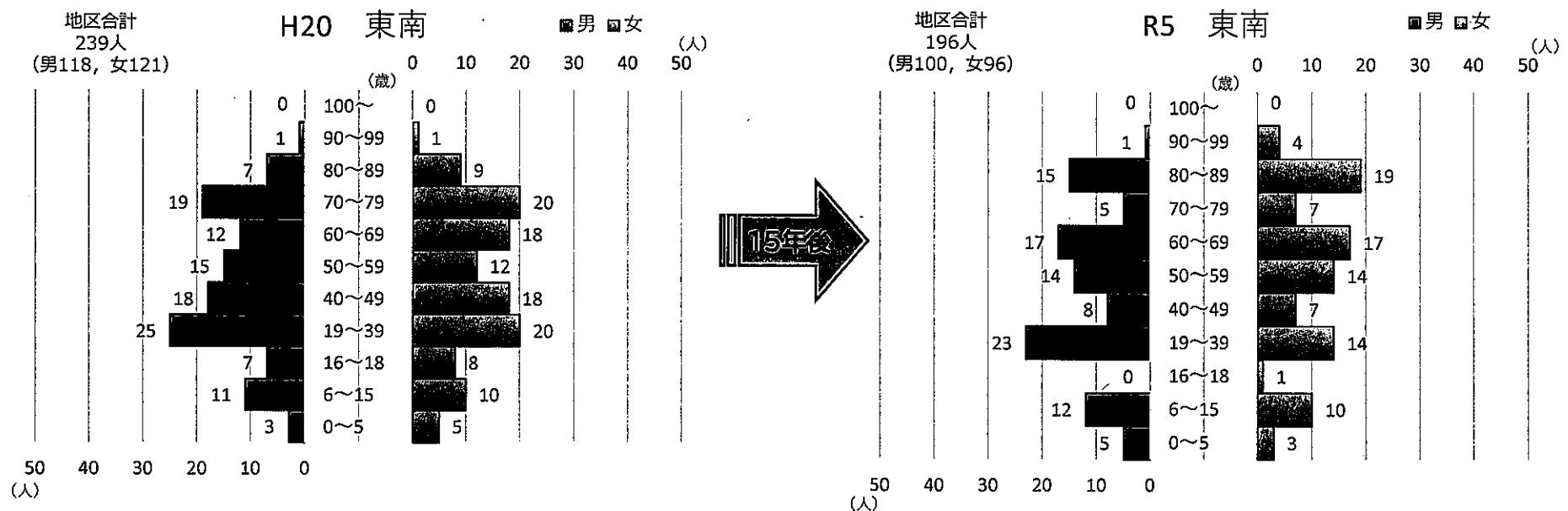


15年後



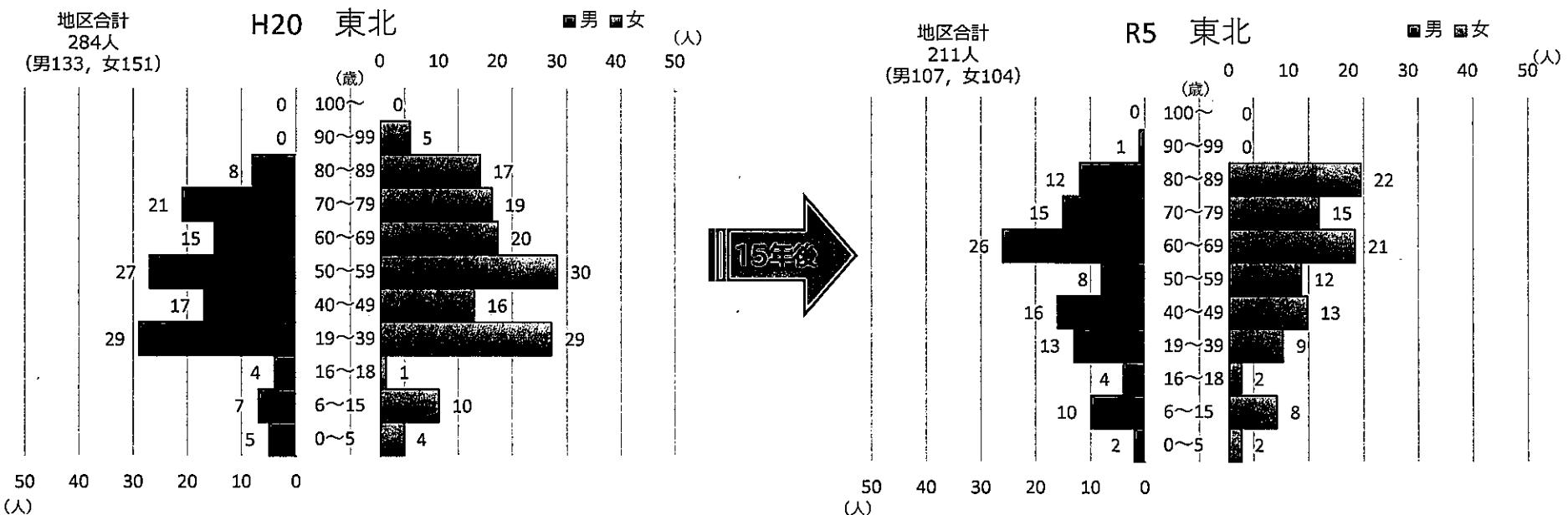
東南地区の年代別人口数の推移

令和5年3月末現在



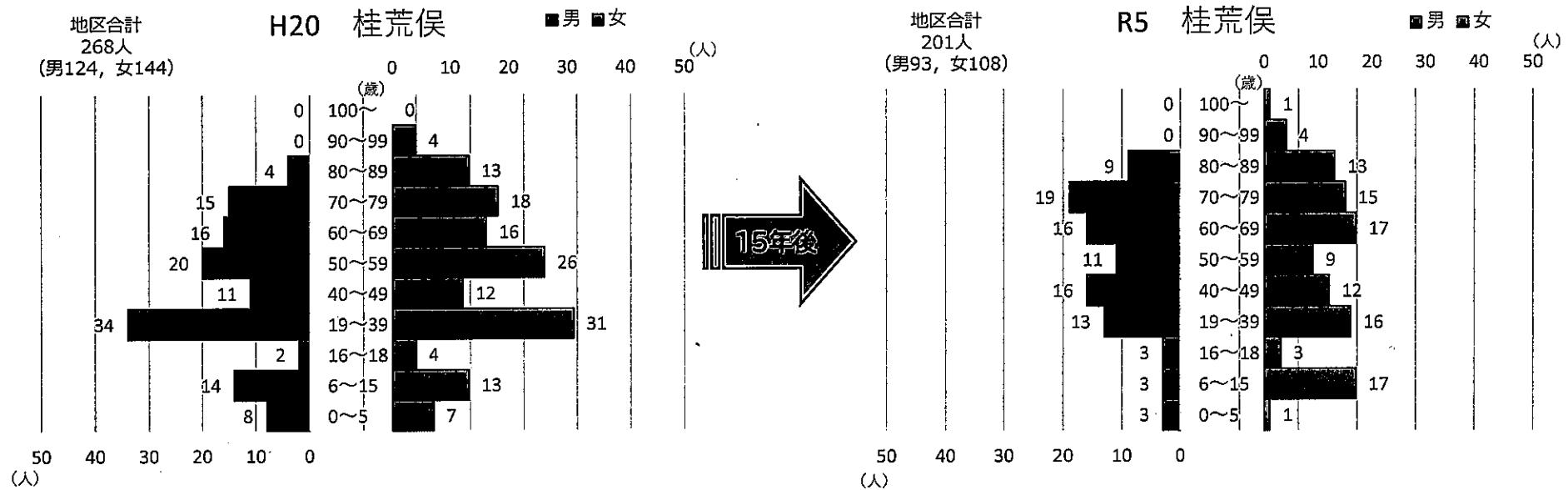
東北地区の年代別人口数の推移

令和5年3月末現在



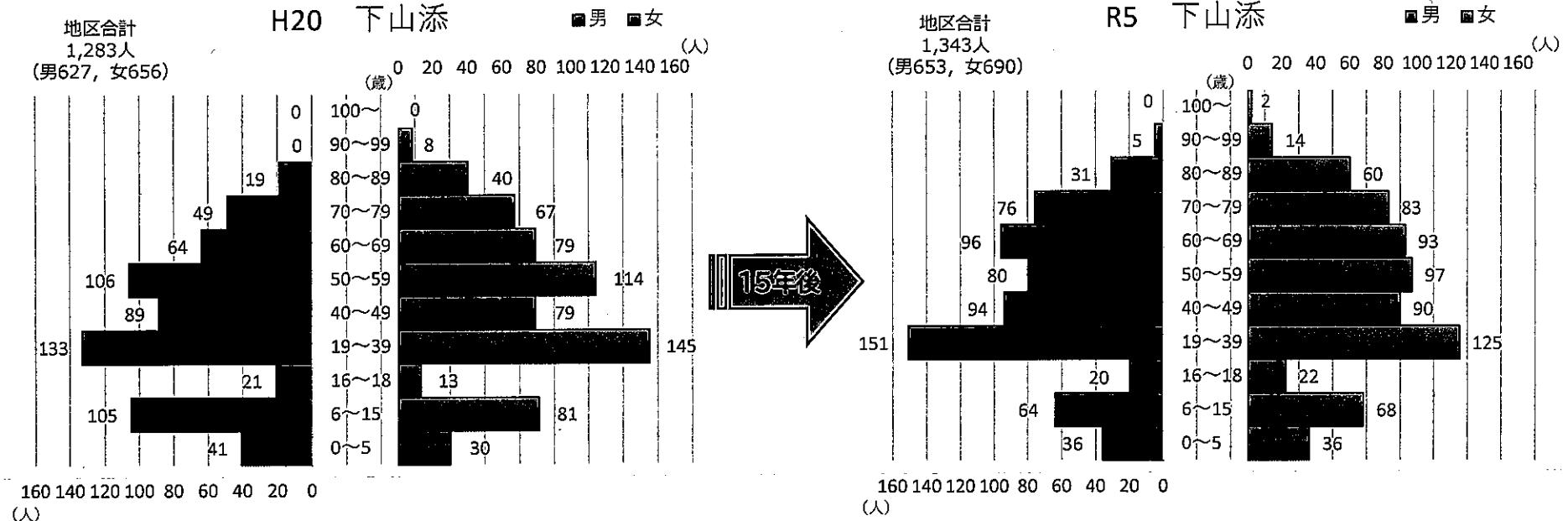
桂荒俣地区の年代別人口数の推移

令和5年3月末現在



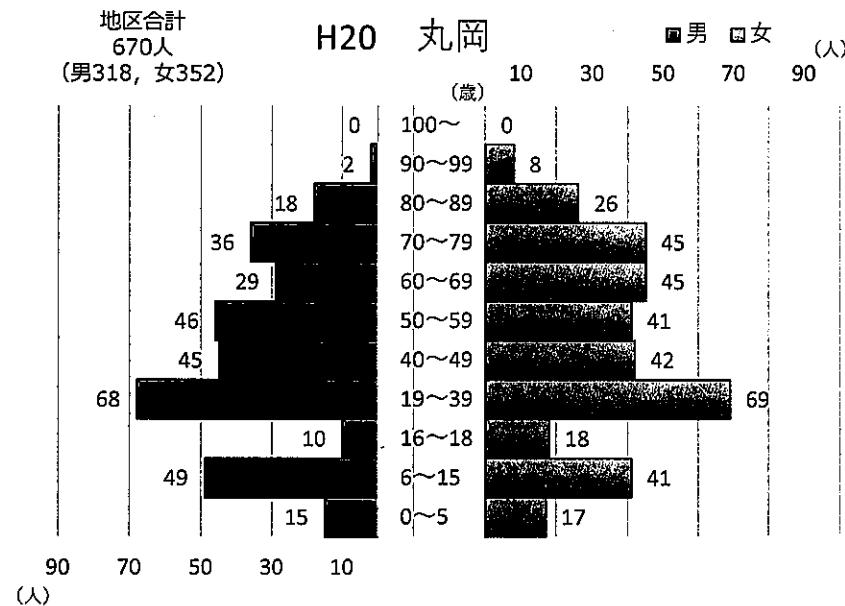
下山添地区の年代別人口数の推移

令和5年3月末現在

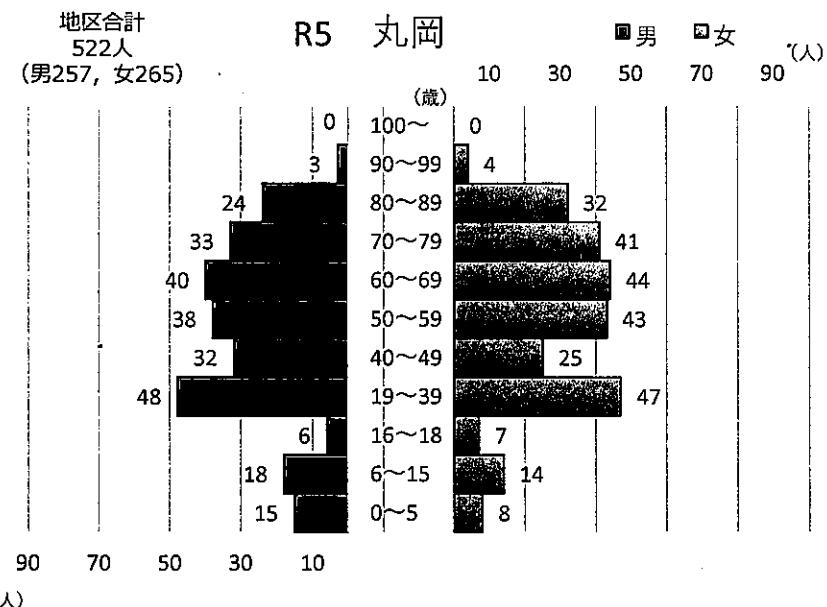


丸岡地区の年代別人口数の推移

令和5年3月末現在

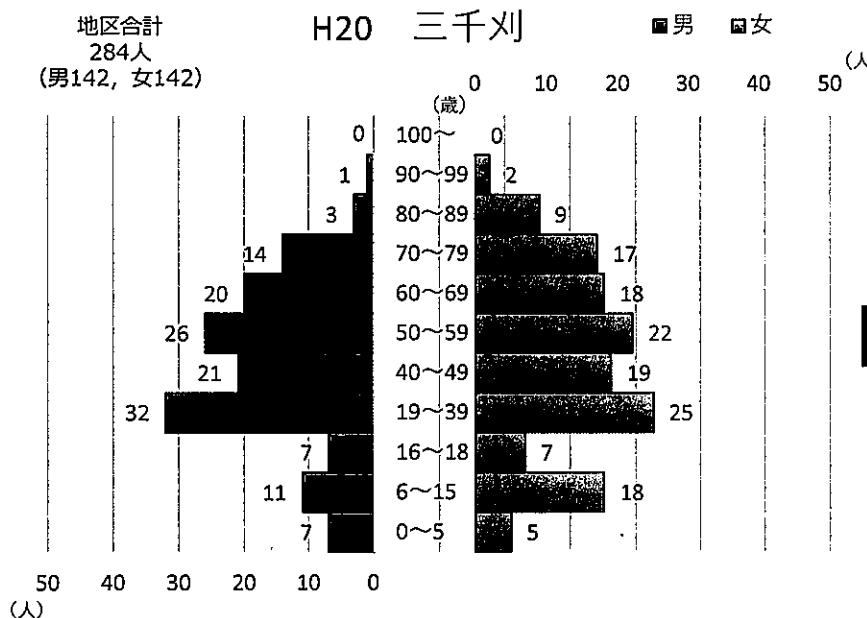


15年後

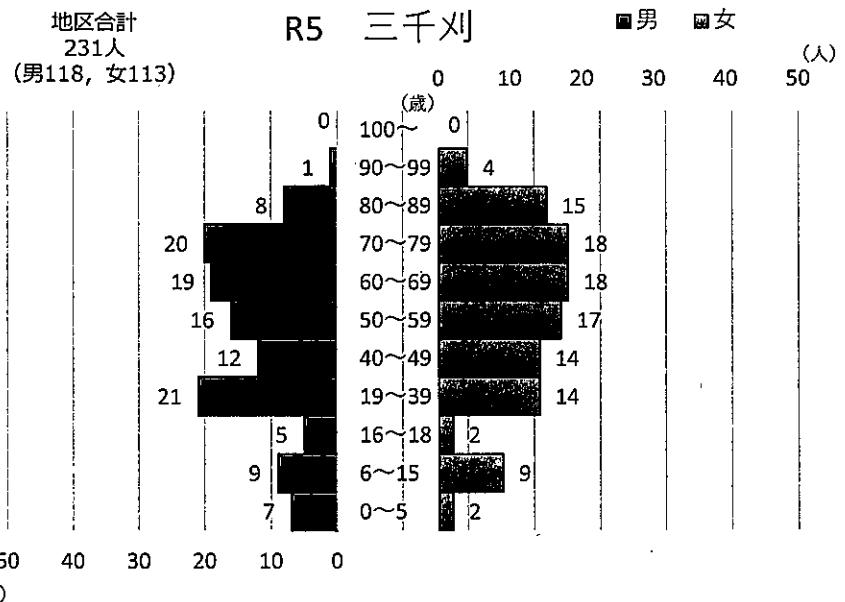


三千刈地区の年代別人口数の推移

令和5年3月末現在

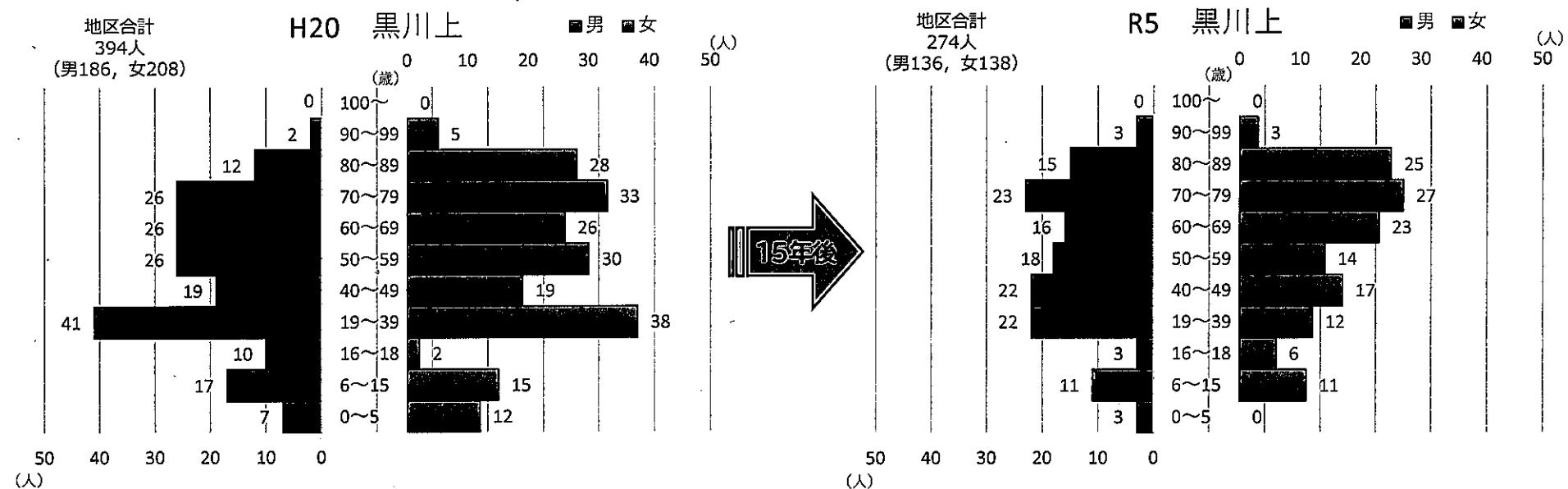


15年後



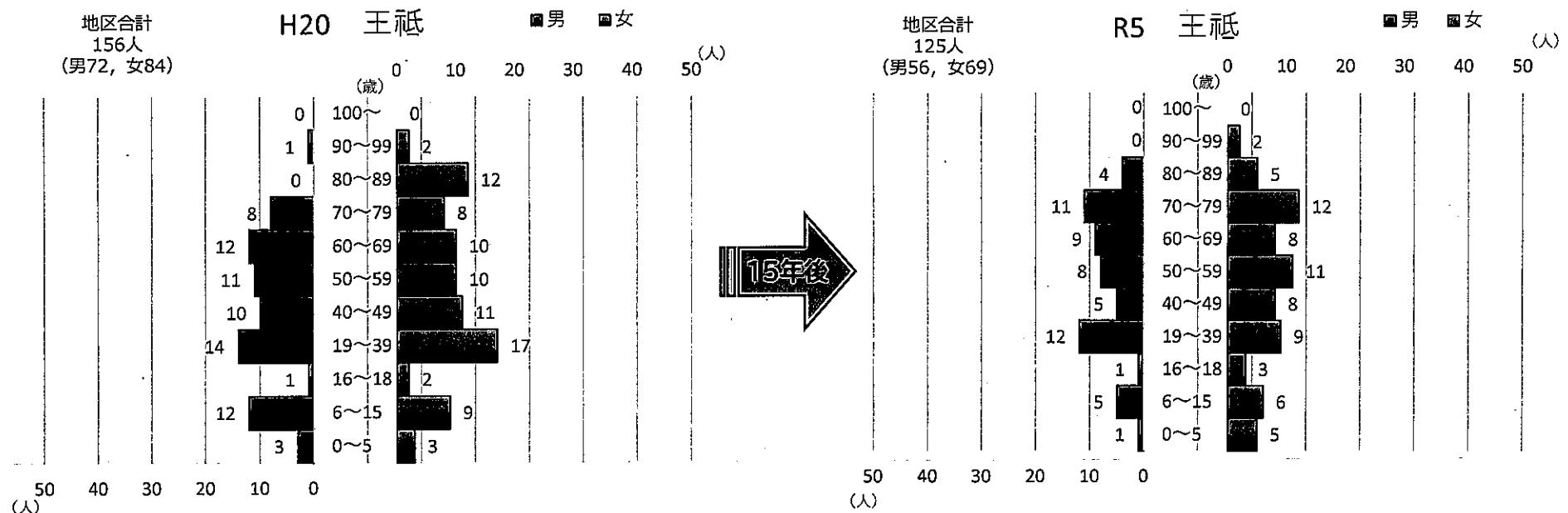
黒川上地区の年代別人口数の推移

令和5年3月末現在



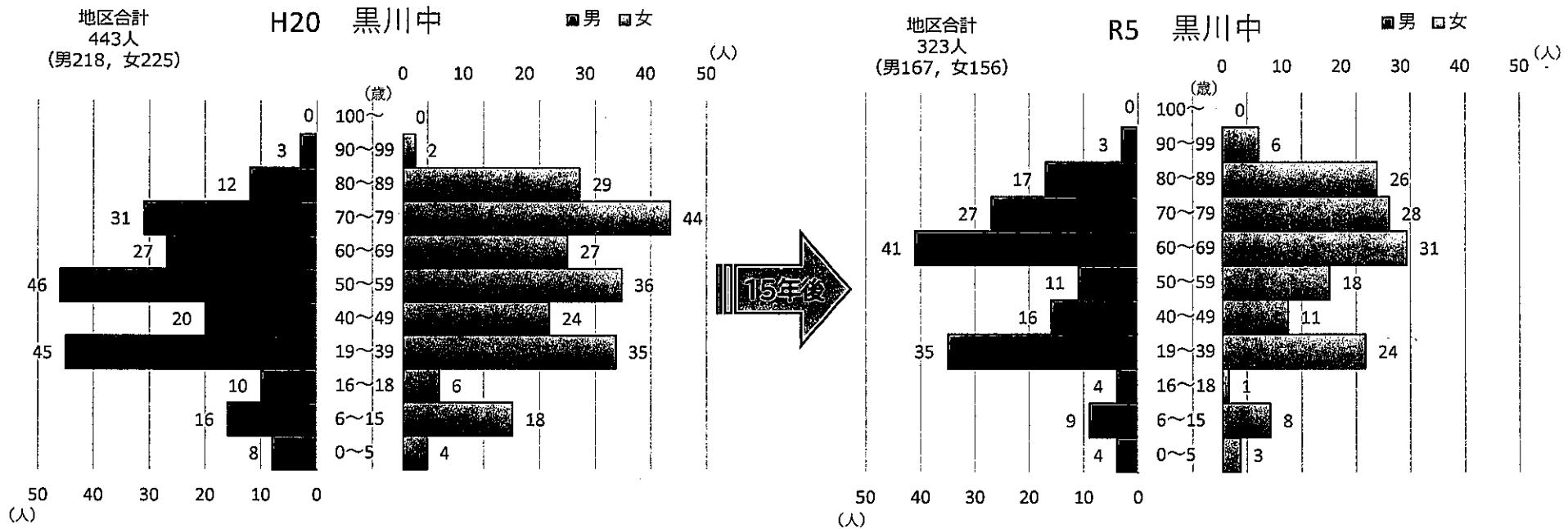
王祇地区の年代別人口数の推移

令和5年3月末現在



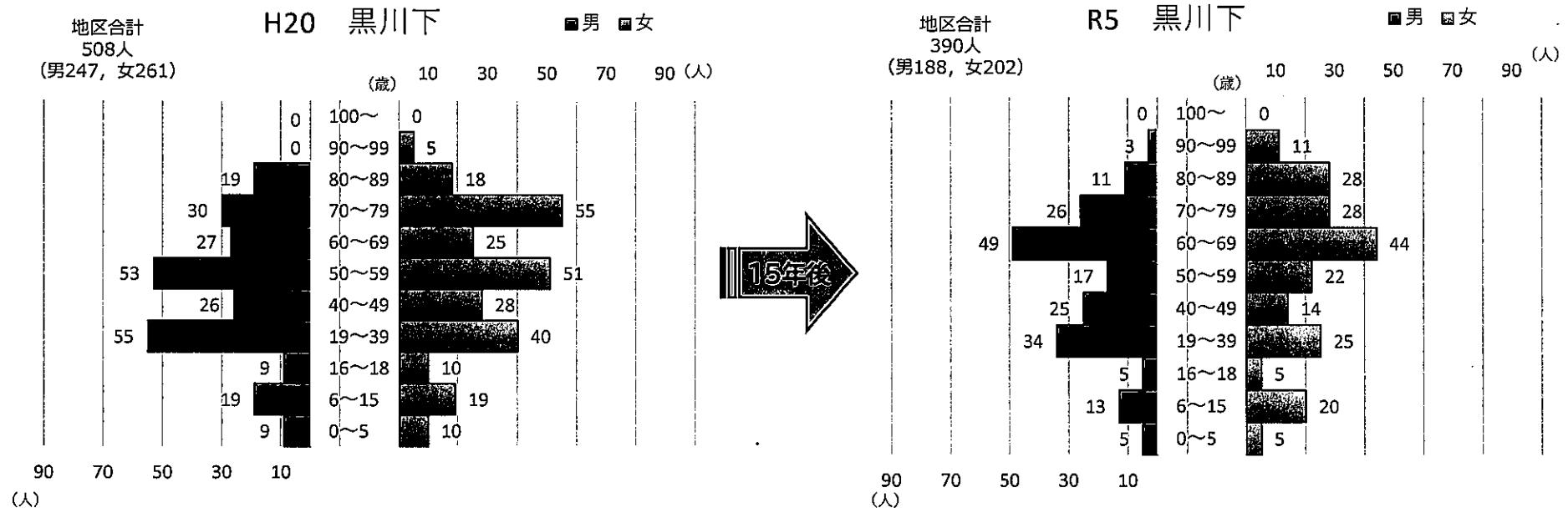
黒川中地区の年代別人口数の推移

令和5年3月末現在



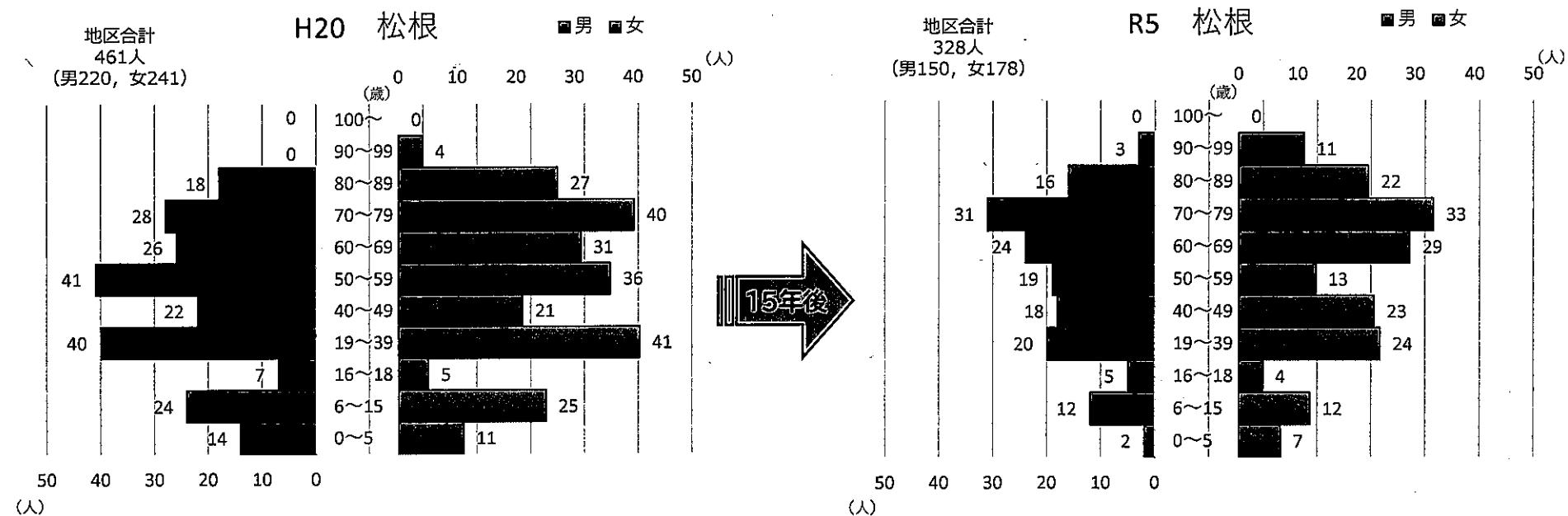
黒川下地区の年代別人口数の推移

令和5年3月末現在



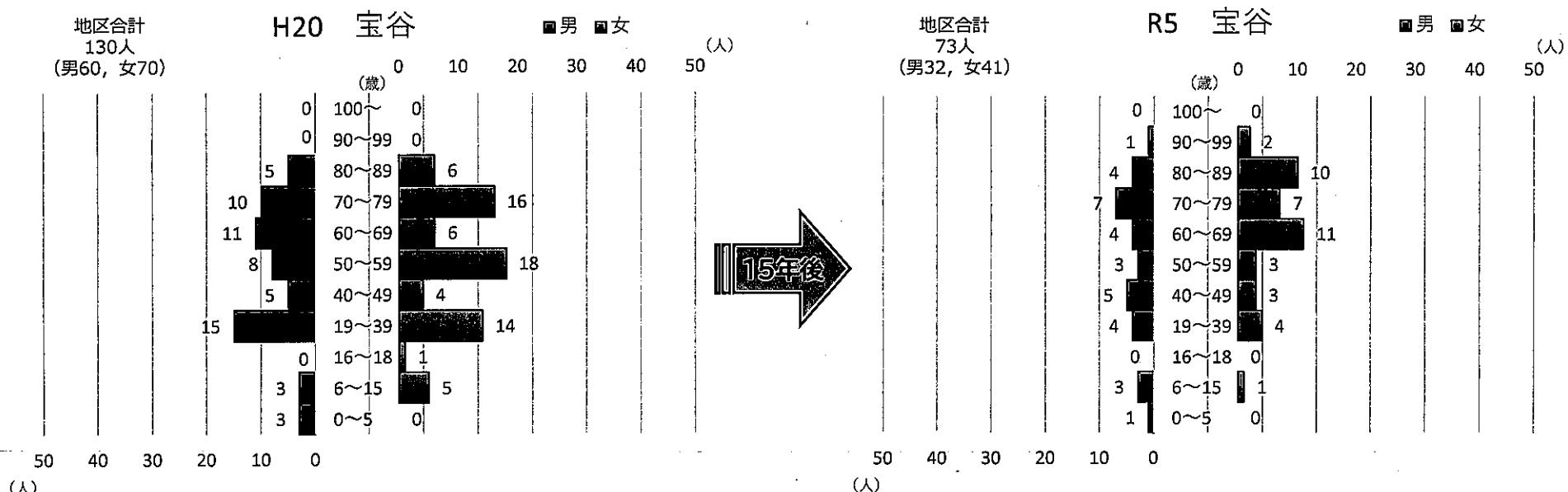
松根地区の年代別人口数の推移

令和5年3月末現在



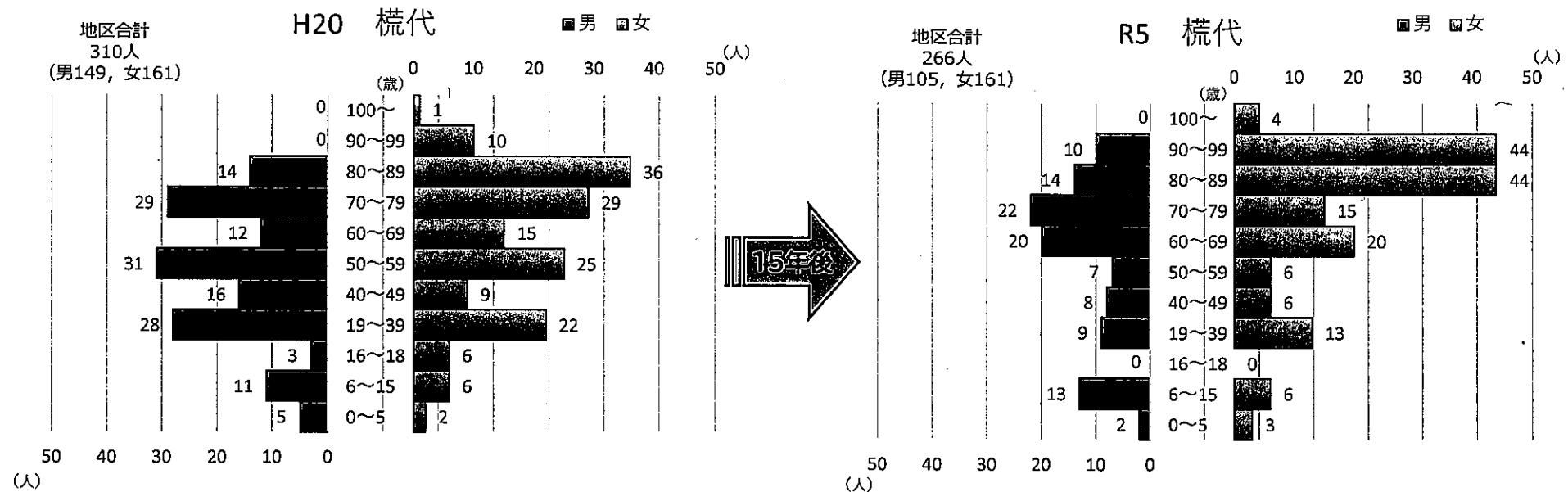
宝谷地区の年代別人口数の推移

令和5年3月末現在



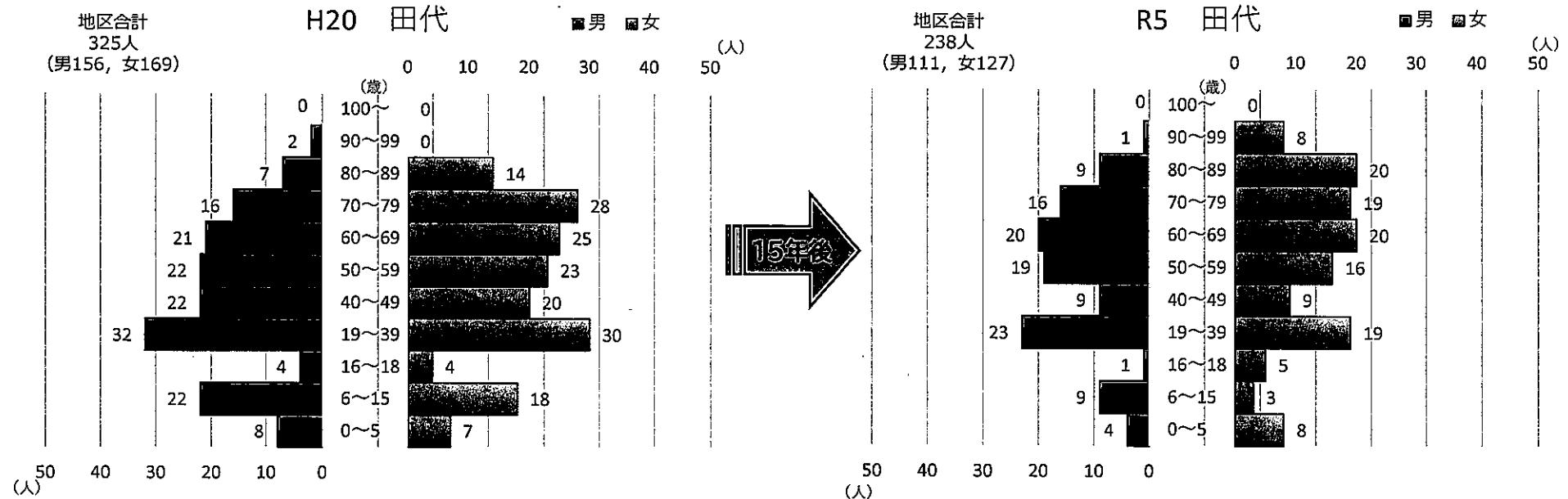
橿代地区の年代別人口数の推移

令和5年3月末現在



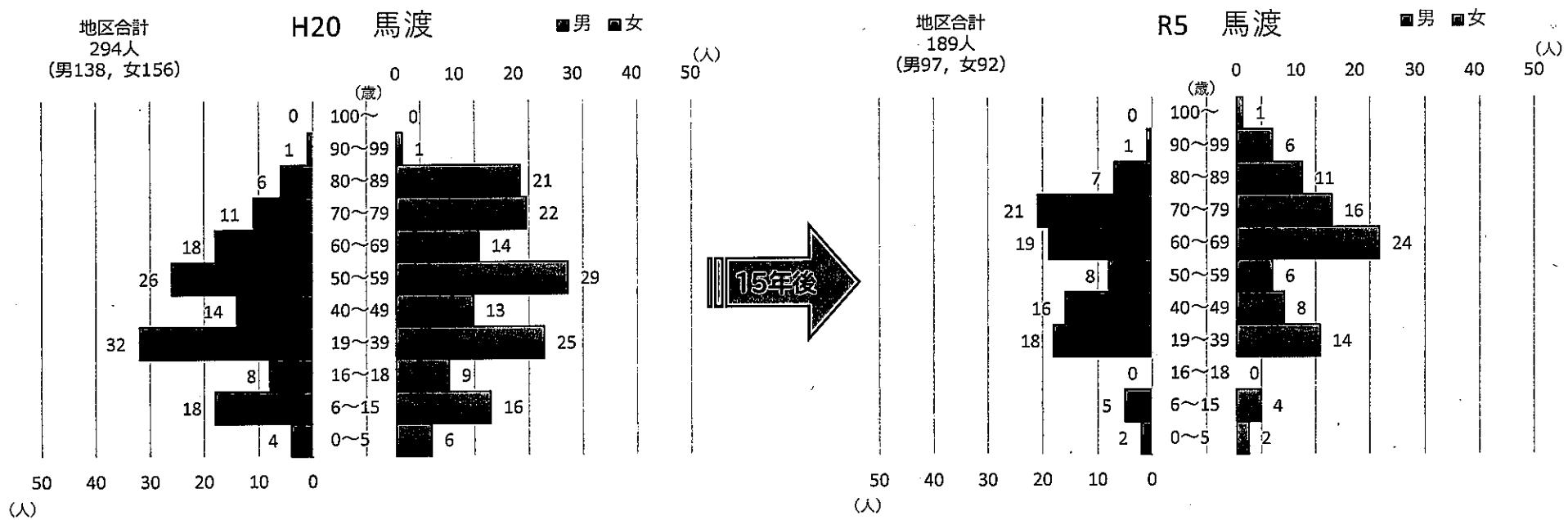
田代地区の年代別人口数の推移

令和5年3月末現在



馬渡地区の年代別人口数の推移

令和5年3月末現在



櫛引 どうする家康アンケート 調査結果

アンケート調査対象者：櫛引中学校1～3年生
(155名より回答)



2023(令和5)年12月実施
櫛引庁舎総務企画課

アンケート回答者詳細について

- ・ 性別 男性 67名 女性 79名 無回答 9名
- ・ 学年 1年 49名 2年 51名 3年 55名
- ・ 住んでいる地区

【西学区】

- 1.上山添 10名
- 2.中田 4名
- 3.常盤木 14名
- 4.東北 5名
- 5.桂荒俣 7名
- 6.下山添 34名
- 7.丸岡 8名
- 8.三千刈 3名

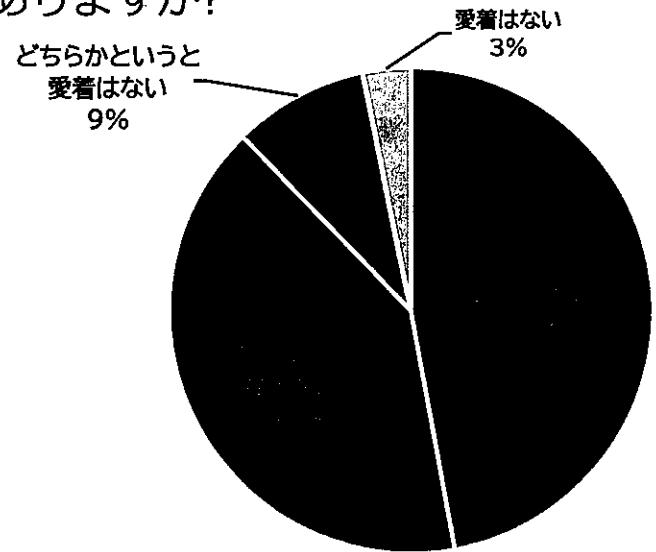
【南学区】

- 9.西荒屋 8名
- 10.板井川 5名
- 11.西片屋 3名
- 12.東南 5名
- 13.松根 9名

【東学区】

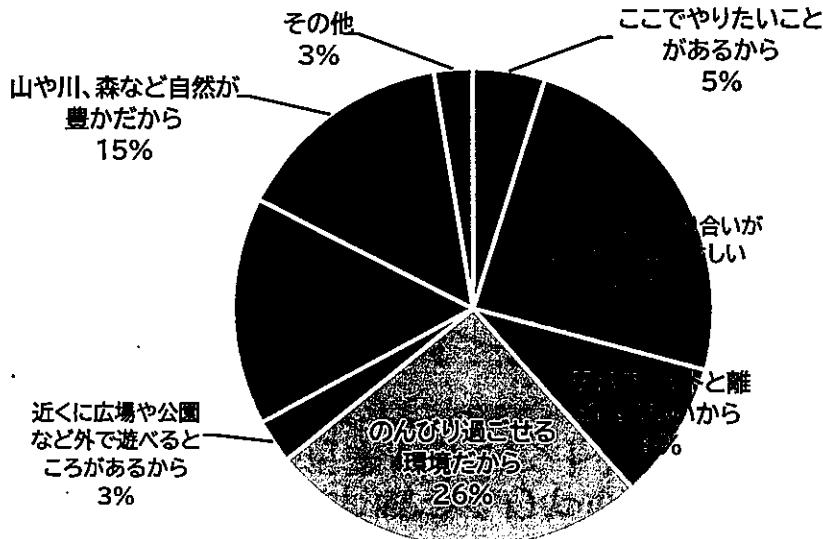
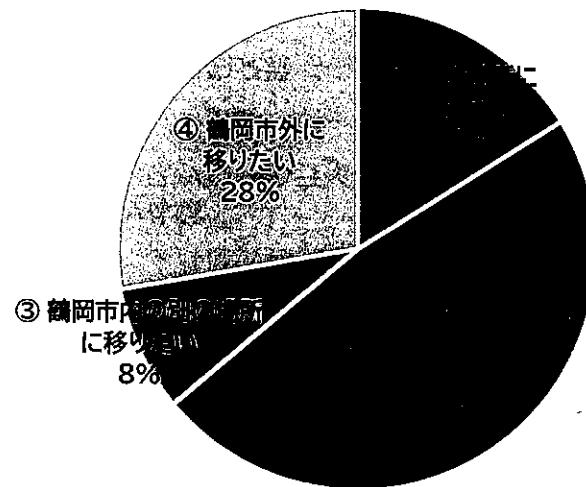
- 14.黒川上 7名
- 15.王祇 3名
- 16.黒川中 4名
- 17.黒川下 12名
- 18.宝谷 1名
- 19.橿代 3名
- 20.田代 4名
- 21.馬渡 1名
- 無回答 5名

【問1】あなたは櫛引地域への愛着はありますか?

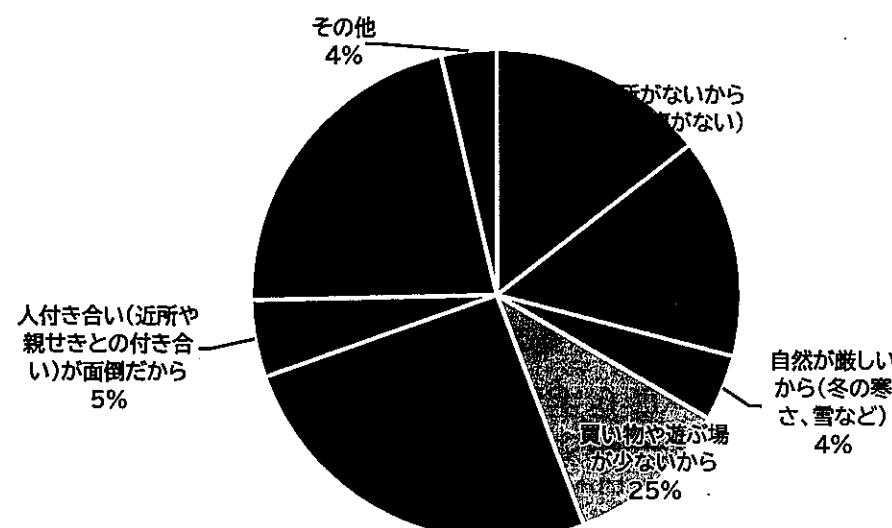


【問2】これからも櫛引地域に住み続けたいと思いますか?

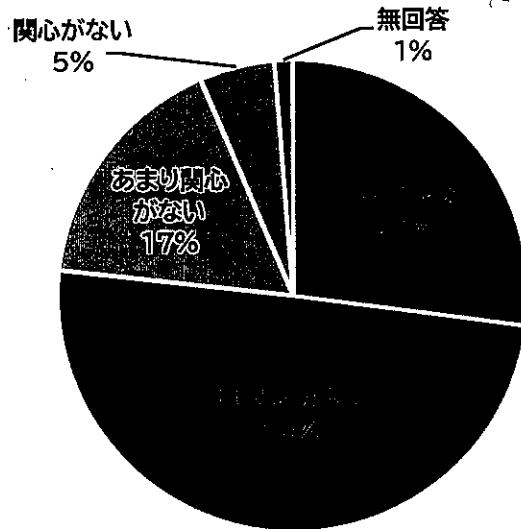
【問2】これからも櫛引地域に住み続けたいと思いますか?



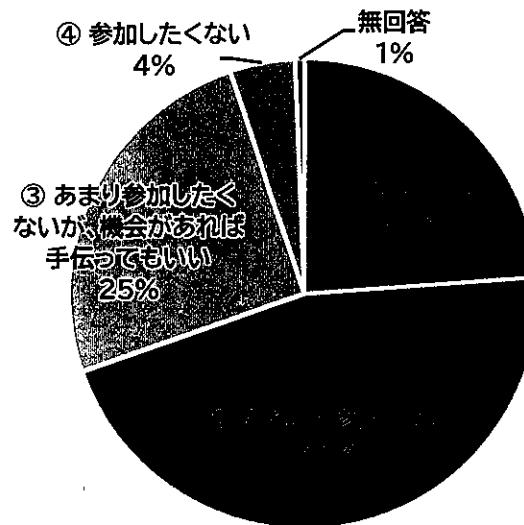
【問4】問2で、3か4に○をつけた方におたずねします。そう思う、主な理由はどのようなことですか?



【問5】あなたは地域づくりや地域活動（櫛引全体での行事やイベント）に関心がありますか？



【問6】地域づくりや地域活動への参加や運営のお手伝いに参加する機会があるとしたら、参加したいと思いますか？



【問7】問6で、1か2に○をつけた方におたずねします。参加するとしたら、どんなことをやってみたいですか？

- ・夏まつり（祭りごと、騒げるまつり、地域のまつり含む）
- ・大運動会（地区対抗）
- ・eスポーツ大会（ゲーム大会・e フットボール大会含む）
- ・スポーツ大会（卓球大会・球技大会・サッカー大会・ドッジボール大会・フェスティバル含む）
- ・ボランティア活動（サルビア植栽、清掃活動、地域のためになる活動含む）
- ・イベントのお手伝い（夏まつりのお手伝い・運営、小中学校の運動会の運営）
- ・花火大会
- ・駅伝・マラソン
- ・地域全体で遊ぶ、盛り上がるイベント
- ・他地域、世代間交流
- ・農業体験
- ・フェス
- ・雪合戦
- ・スポーツ体験
- ・クリスマスツリーのライトアップ
- ・櫛引スタンプラリー
- ・伝統行事
- ・老人ホームでの交流
- ・キャンプ

【問8】櫛引地域の「良いところ・あったらいいなと思うもの」と「悪いところ・これはちょっとと思うもの」があれば、自由にお書きください。

(良いところ)

- ・挨拶（地域の人が挨拶を返してくれる）
- ・地区の伝統行事が観れること
- ・伝統的な場所がたくさんある
- ・あぐりがある
- ・安全（平和で安心、過ごしやすい）
- ・イオンがある
- ・おいしいものがたくさんある（果物・お米）
- ・学校と地域の交流が多い
- ・公民館が多い
- ・活気がある
- ・コンビニなどが近い
- ・自然、果物、山形の人全部
- ・自然が豊か
- ・地域全体が仲が良い（雰囲気がいい）
- ・地域の人がみんな優しい（親切な人が多い）
- ・公共施設や公園など遊ぶところがある（スポセン、ゆ~タウン、スキー場などがある）
- ・図書館がある
- ・自由に遊べる、行動できる
- ・色々な事ができるところ
- ・富樫実さん、柏戸の出身地
- ・町全体で防犯意識を高めようとしている
- ・人が少ない
- ・買物ができるところ
- ・農業が盛んなところ
- ・プリ機がある
- ・学び場
- ・涼しい
- ・自然があって空気がおいしい
- ・完璧なところ

(あつたらいいなと思うもの)

- ・大きい公園、自習室、塾がほしい
- ・赤川を渡る橋を新しく建ててほしい（交通が不便だから）
- ・アニメイト、ハードオフ、イオン、ゲオ、カラオケ
- ・自動販売機、国道の歩道の除雪
- ・宿泊施設
- ・文房具店（ロフト）
- ・電車等の交通網
- ・イオンやエスマールのようなショッピングモールがあつたらいいと思う
- ・本屋など、スーパー、ドラッグストア、コンビニ以外の店があつたら良いと思う
- ・農業の体験会、質問会
- ・コンビニの数を増やしてほしい
- ・もう少し買い物ができる場所
- ・飲食店（マックやガスト）
- ・公園、遊べる施設（バスケができるところ）
- ・中高生が楽しく遊べる場所
- ・遊ぶところ（ゲームセンターなど）

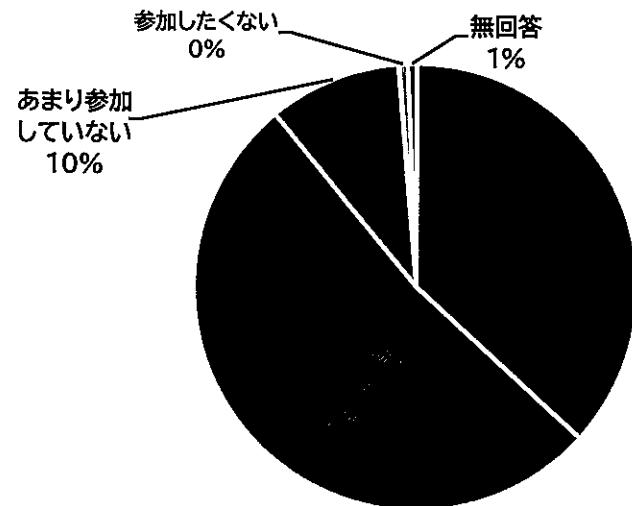
((悪いところ))

- ・空き家が多い
- ・街灯が少なく、暗い
- ・ポイ捨てする人がいるのか地区内にゴミが落ちている
- ・バスが少ない
- ・空気がまずい時がある
- ・交通の便が悪い
- ・人が少ない
- ・熊が出る
- ・道に雑草が多い
- ・虫が多い（ハチやカヘムシ）
- ・道路の危ない所とかをもうちょっとちゃんと見てほしい
- ・交通事故が多い
- ・情報
- ・道路などの整備
- ・危険な道路がある
- ・道路や道が狭く、ガタガタになっている

((これはちょっとと思うもの))

- ・遊べる所に行く時に時間がかかってしまうこと
- ・あまり人がいないため危ない（夜道、天候の悪い日）
- ・田舎で遊ぶところが少なすぎる
- ・イオンなどが遠い
- ・田舎すぎる
- ・大きい建物がない
- ・大型施設などから遠い
- ・お店が少ないと感じる
- ・公民館の土地が不便
- ・気温が低く、雪がたくさん積もるため、移動が大変になる
- ・コンビニが遠い
- ・買物できる店が限られていること
- ・学校の数が少ない
- ・学校に登校する時、田んぼしかなく、風景に変化がなくてつまらない
- ・黒川橋が通れなくなってしまったこと
- ・車を何分も走らせないと買物や遊ぶところがない
- ・コンビニや買物施設が少ない
- ・ショッピングモールがない
- ・サッカーゴールがボロボロ
- ・人口が少なく減っていっているのに、小学校と保育園が多すぎる
- ・建物を潰して建てても面倒なので、残せるものを活かした方がよいと思う
- ・地域の考え方方が古い
- ・地域のくくりがもう少し広いともっと良い
- ・設備が足りていないと思う事
- ・市内までが遠い
- ・自販機すら近くにないところ
- ・商業施設が少ない
- ・遊ぶ場所が少ない
- ・料理屋が少ない
- ・夜道が怖い
- ・建物があまりない
- ・田んぼが多すぎるところ
- ・近所付き合いが面倒
- ・チェーン店（吉野家、すき家）がない
- ・廃品回収の車がうるさい
- ・病院が遠い
- ・何もない
- ・どこに行くにも遠い
- ・電波が悪いところがあること
- ・人が多く行く店があまりない
- ・人気がなさすぎる
- ・最寄りのコンビニが2～3kmはおかしい

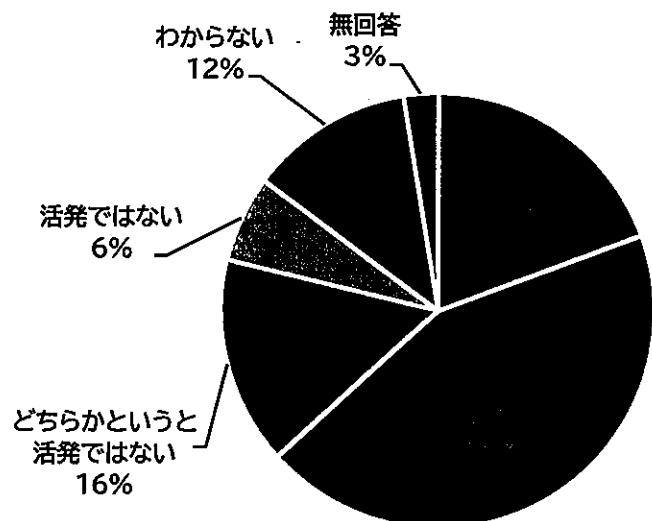
【問9】あなたは地区の活動へ、参加していますか？



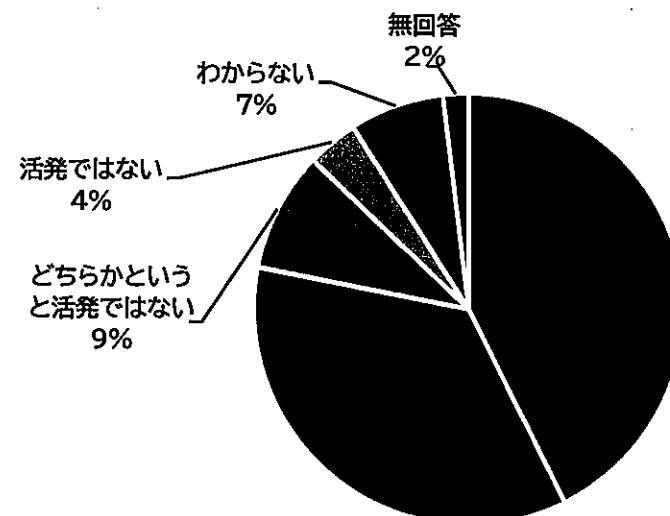
くしひき温泉「ゆ~town」
マスコットキャラクター
『ゆ~たん』

【問10】あなたが住む地区では、地区活動が活発に行われていると思いますか？あなたは地区の活動へ、参加していますか？

1. 地区住民との親睦・交流行事

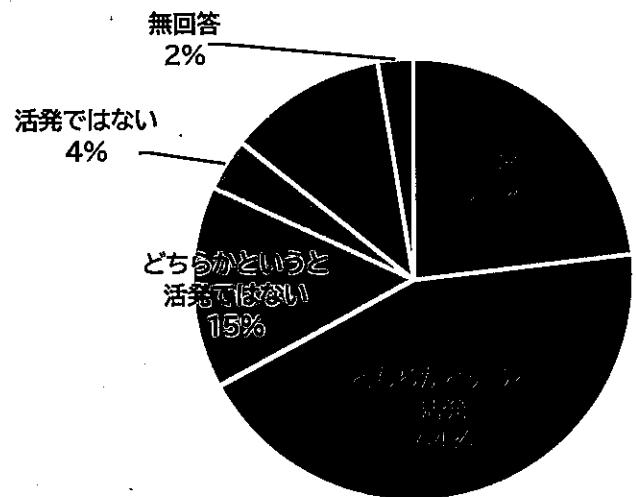


2. お祭り・伝統行事

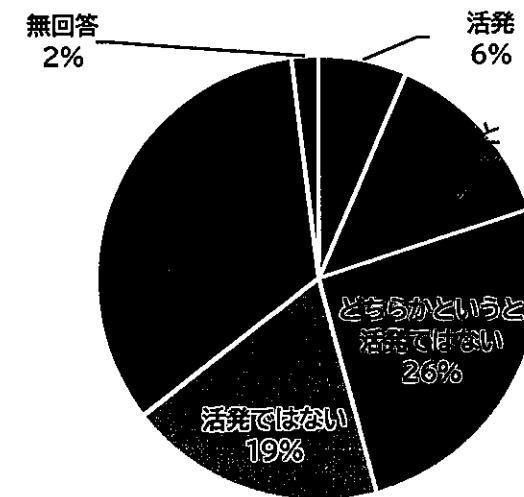


【問10】あなたが住む地区では、地区活動が活発に行われていると思いますか？あなたは地区の活動へ、参加していますか？

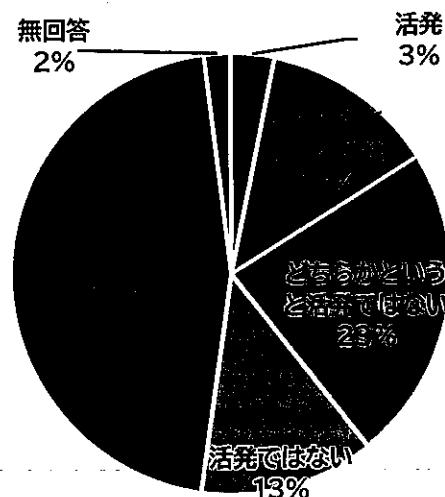
3. 防犯・交通安全



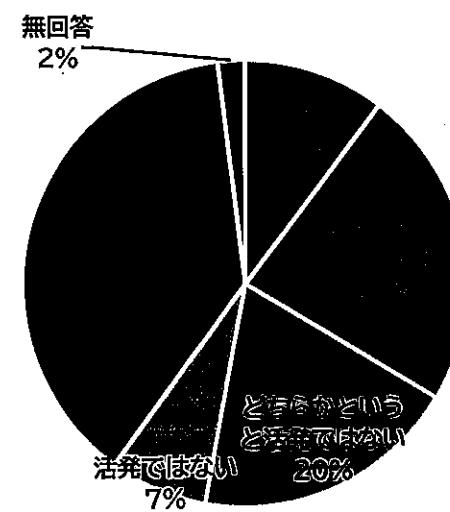
4. 災害などにそなえての防災活動



5. 高齢者福祉・子育て支援

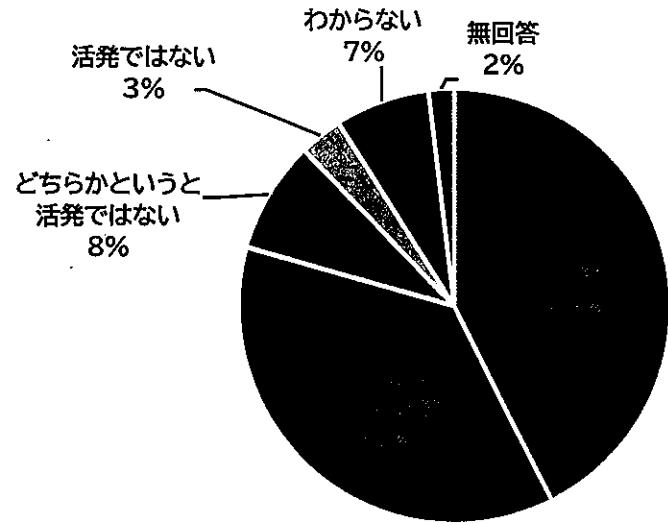


6. 青少年の育成

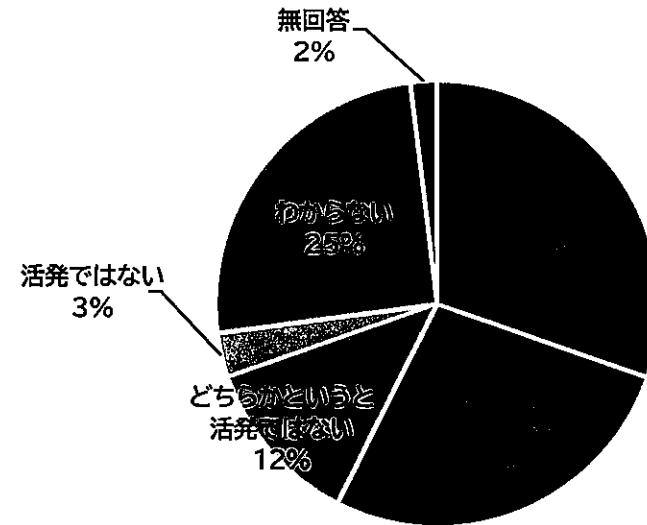


【問10】あなたが住む地区では、地区活動が活発に行われていると思いますか？あなたは地区の活動へ、参加していますか？

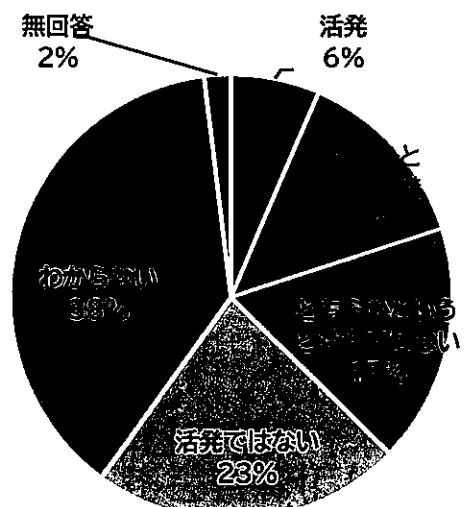
7. 美化活動や清掃活動



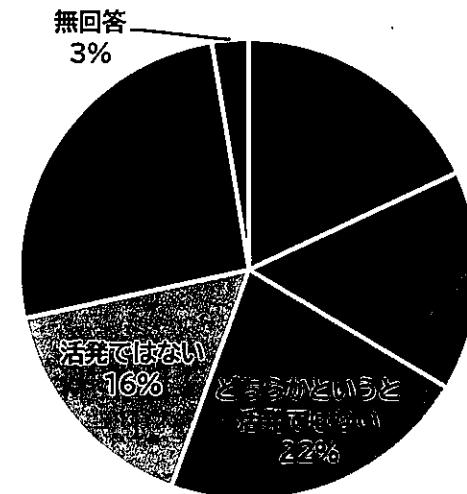
8. リサイクル活動や工芸活動



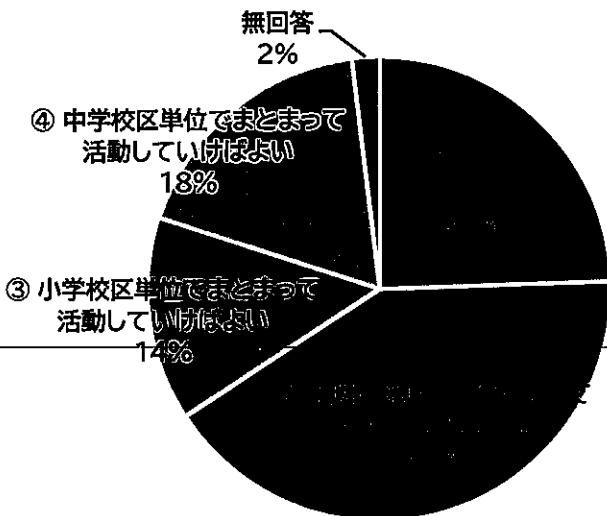
9. 学習の機会づくり



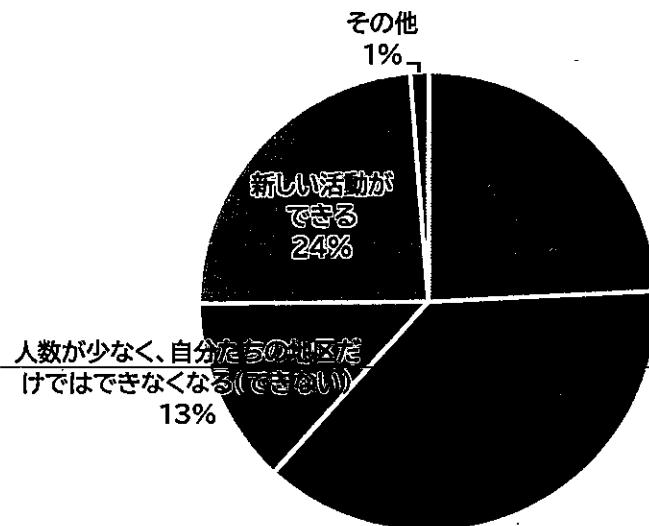
10. スポーツ活動



【問11】今後、少子高齢化や人口流出などで、自分たちの地区に住む人が減っていくことが考えられます。人のつながりを生む地区活動を、どのように活動していけばよいと思いますか？

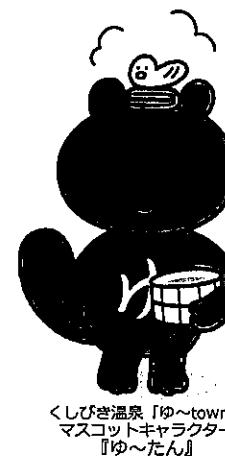


【問12】問11で2～4に○をつけた方にお聞きします。一緒になって活動した方がよいと思った理由は何ですか？



【問13】櫛引地域のこれからについて、意見やアイデアなどがあれば、自由にお書きください。

- ・自然が多くて空気もきれいだが、もう少し飲食店を建てるなどの産業発展がほしい。
- ・イオンやドン・キホーテがほしい。
- ・文房具などをもっと販売してほしい。
- ・ポイ捨てを注意したり、リサイクル活動に力を入れてほしい。
- ・遊べる場所や買い物できる場所などがほしい。
- ・あまり伝統的な文化に縛られず、やりたい人は自由参加で行うべきだと思います。また、近隣の地区と一緒に活動する機会を増やし、対抗意識を減らすこと必要だと思います。
- ・広くて大きくて自由に使って色んな事ができる遊ぶ施設。
- ・行事を増やしてほしい。
- ・若者から高齢者まで楽しめるようなイベントが多くなれば櫛引地域はさらに良くなると思う。
- ・遊べる場所を増やしてほしい。



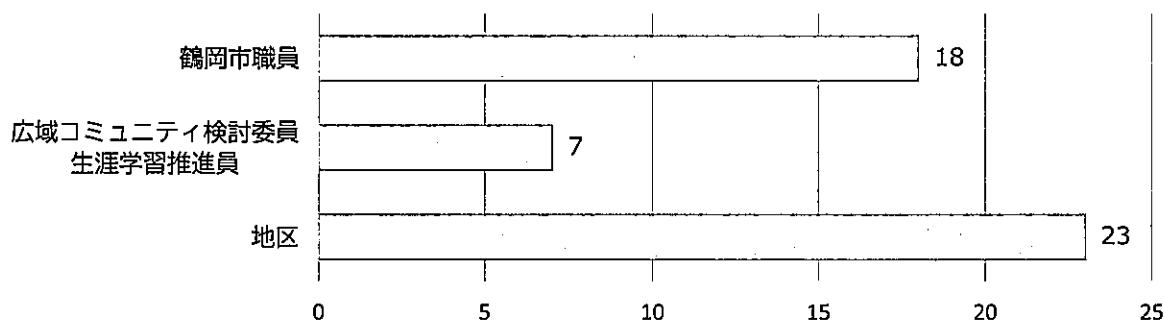
くしひき温泉「ゆ~town」
マスコットキャラクター
『ゆ~たん』

櫛引中学校の生徒のみなさん、ご回答、貴重なご意見、誠にありがとうございました。

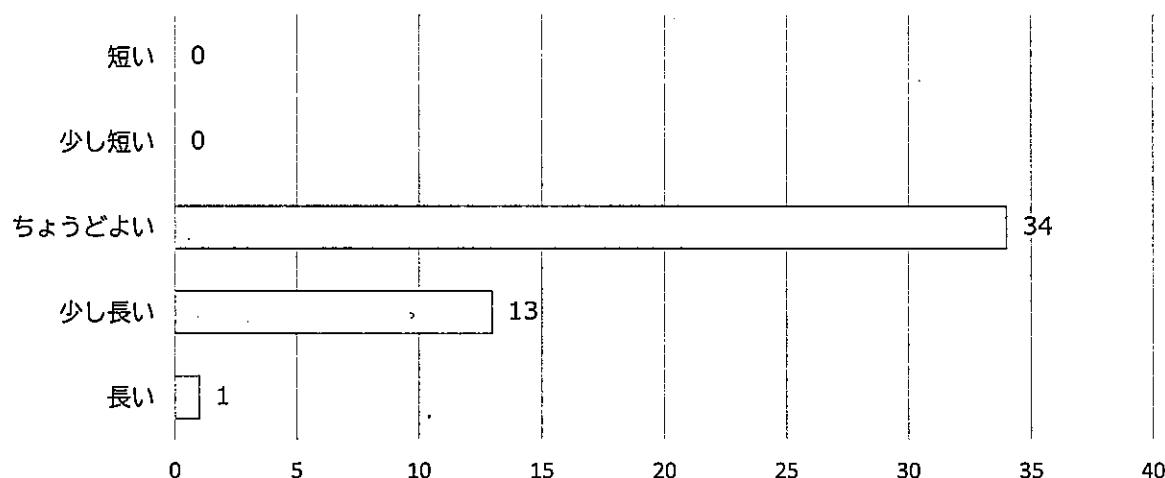
ワークショップ当日参加者のアンケート結果について

本日のワークショップに参加しての感想をお聞かせください。

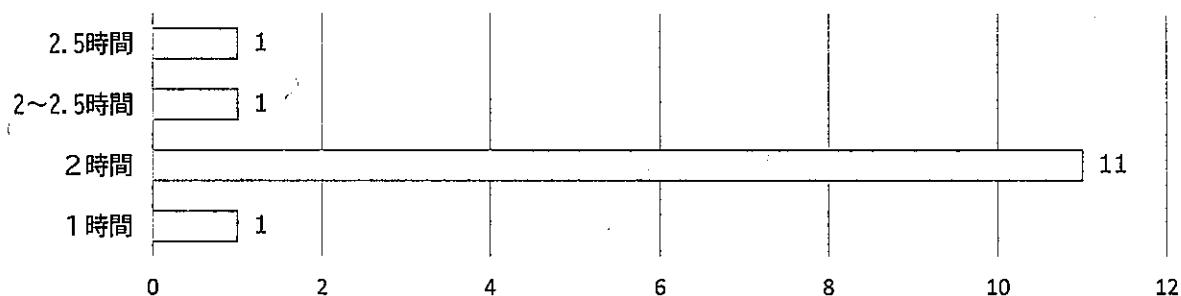
問1 参加区分



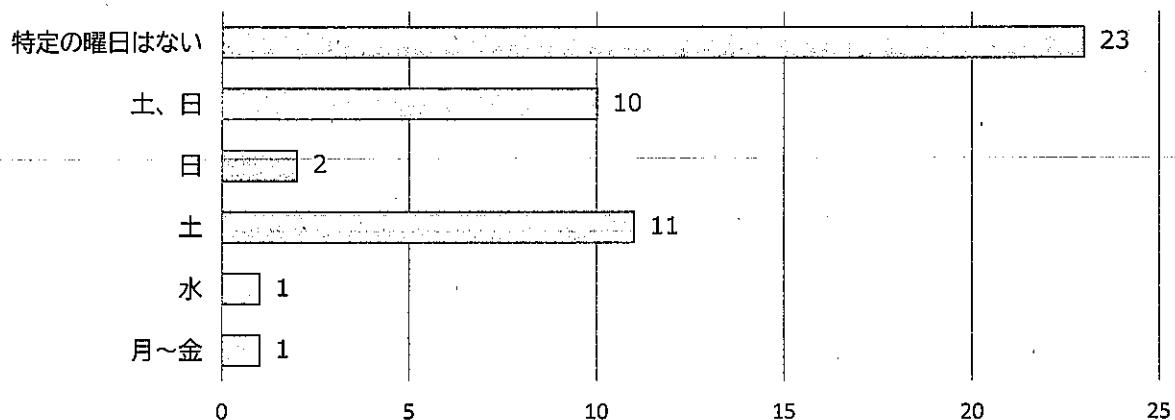
問2 今回のワークショップの時間はどうでしたか？



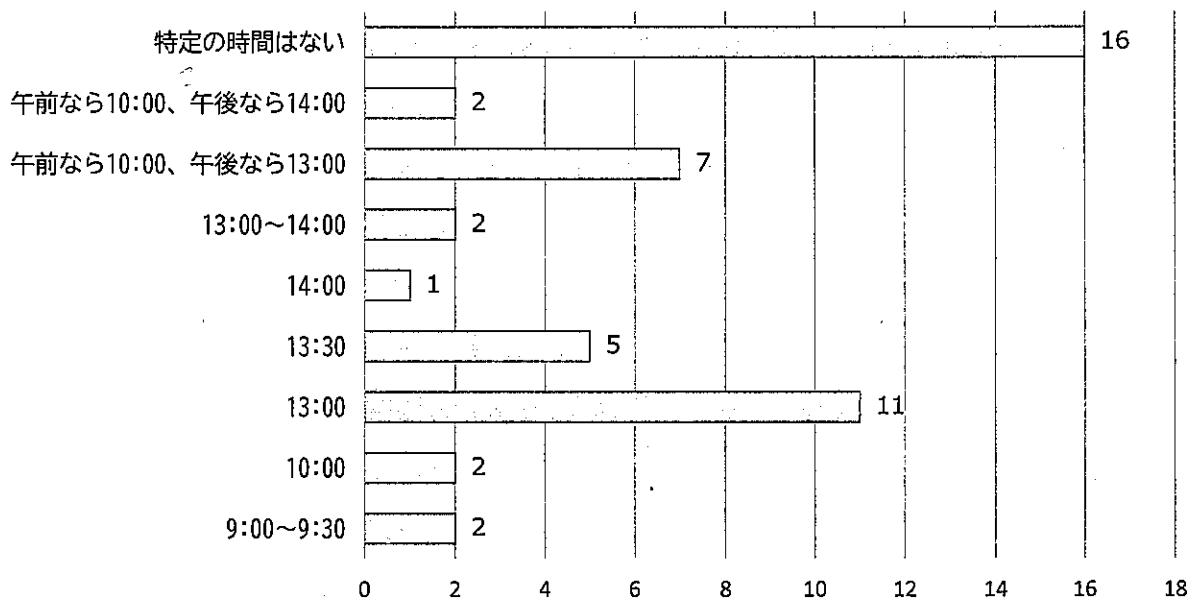
問3 問2で、③を選択した方以外にお聞きします。 どれくらいの時間がちょうどよいか記入お願いします。



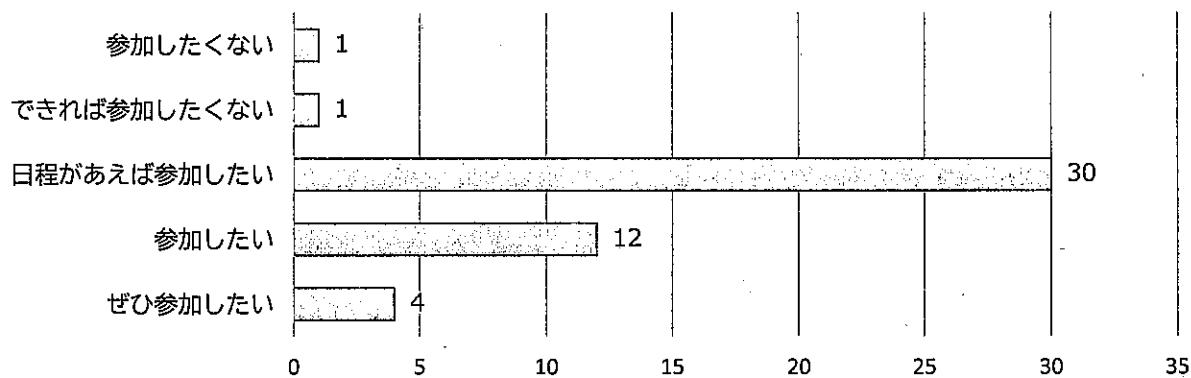
問4 何曜日の開催であればワークショップに
参加しやすいですか？



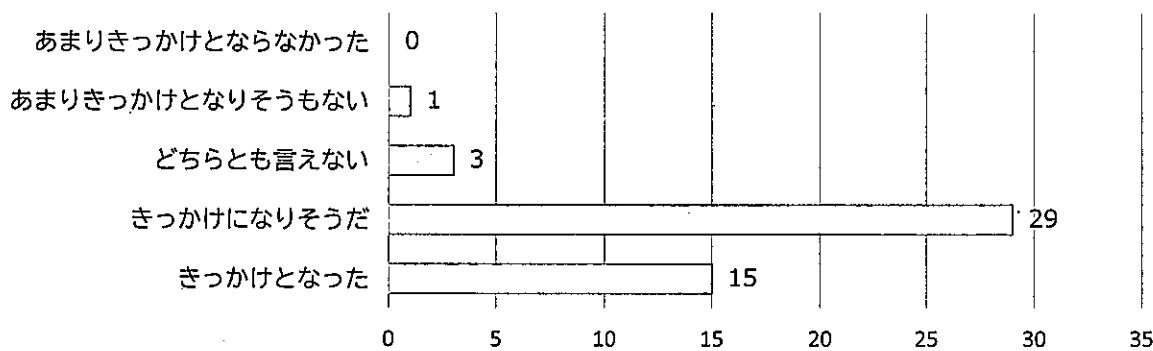
問5 開始時間は何時だと参加しやすいですか？



問6 来年度もこれからのコミュニティを考えるワークショップを開催
予定ですが、参加できますか？



問7 本日のワークショップは、これからのおおきなコミュニティ（地区や地域）を考えるきっかけとなりましたか？



問8 これからの地域づくりについて、どのようなことが考えられると思いますか？考え方をお聞かせください。

- ・思い出の詰まった地区になるよう。うまい物（フルーツ）作り。
- ・地域づくりについての重要性を様々な年代に広める。
- ・人口減少に合わせた地域づくりの手法を探っていく。
- ・地域運営の組織を作る必要がある。広域コミュニティ組織の必要性。
- ・地区の「あり方」として繋がりとして、祭りがとても大切だという事がわかった。人が少なくなっても伝統として地区行事を続けられるように、手助けをしていきたい。
- ・スムーズな世代交代。
- ・地区全体で集まる事はなかなか難しい。
- ・高齢化による一人暮らし、空き家。少子化で閉園、閉校による合併。
- ・公正についてどう考えていくか。
- ・持続可能な地域社会の実現に向けて、人とのつながりを大切にし、先輩たちが作ってきた「つながり貯金」を消費しながらも、新しい「つながり貯金」を作る活動をしていく事が求められると思った。
- ・楽しいことと結びつけないと参加する人がいない。
- ・10年後は今とガラッと変わっていると思います。人口減少で地域がどうなっていくのか今から心配しています。
- ・人集めを繰り返し行う事が大事だと思います。コミュニケーションなくして進展はないと思いました。
- ・地域の人が少なくなる状態で、継続していくにはどのようにしたら良いか考えていきたい。
- ・人口減少の中、行事の見直し。
- ・仲間作り！
- ・中学生が参加・意見できる環境と活かす環境。
- ・一番大事な事は、人と人とのつながりがあるという事。1人の為に動く事の大切さを考えさせられました。
- ・老若男女交流することは良いこと。テーマを決めて話し合う事もあってよい。
- ・コミセン化することで終わりではない。地域づくりを各自治会にどのような組織で取り組むかが課題。
- ・参加者が本音で話し合う事ができるような機会を設ける。高校生くらいから、ワークショップに参加してもらうような取組みが必要。市内、市外、他団体の取組み事例を発表してもらう。
- ・地域行事への参加。
- ・今まで私の周りで普段通り行われてきたことを守り続ける事が、何より大事だと思った。
- ・人口が減っている中で、組織統合は必要だと思う。「つながり貯金」が無くなる前に進めていかなければならないと思う。

- ・各地域が独立して行事等運営していくのは難しくなっているので、広域で行っていく選択になると思うが、各地域の独自性や地域性を十分尊重していく必要がある。（あわせて行うようになつても効率化のみ優先して特徴を失つてはいけないと思う。）
- ・お祭り、イベント軽視の風潮はあるが、仲間づくりのツールになるものであるので、重視する必要があると感じた。また、地域づくりへの参加は、健康づくり（認知予防、生きがい）にもつながるもの。なかなか、行事に参加しない人へも根気よく何度も声掛けをすることが大切だと感じた。
- ・つながり貯金の例で言うなら、貯金（収入）を維持することだけでなく、支出を減らすことを考える必要もある。
- ・人間関係が希薄にならないようにする必要がある。
- ・ワークショップの機会を増すか、講師をよんでの研修会等を何回か開催し、住民の意識づくりが大事だと思います。
- ・住民の方に、地域行事は「面倒くさい」から「お互いに必要なもの」へと変わらるようになれば、続けていけるようになるかも。楽しむ要素を入れる工夫が大事だと思った。
- ・いかに住民を参加させるか、地域を作るのは地域の人なので。住民の危機感がないとまちづくりは進まない気がする。櫛引は学区再編もなく、災害が少ないので、何とかしないとという気が少ない。海沿いの地域は東日本大震災で津波避難の危機感から避難路づくり→町づくりに繋がっている気がします。
- ・若い世代は地域でのつながりが希薄になっていくと思う。その中で地域のつながりを残していくために、行動していかなければならぬと思う。
- ・日頃から挨拶をするなど、地域住民とのつながりを持つことが大切。世代関係なく集まれる機会（かしこまったものではなく、みんなで楽しめるもの）をどんどん増やしていくべき。
- ・櫛引地域の地域づくりを今回検討したが、市全体としてどうなのかも気になる。櫛引は各地区ごとの集まりと昔からしているため、そのくくりで地域づくりをしなければならない感じた。
- ・顔を会わせて、酒を飲んで話す時間を作ることが大事だと思いました。
- ・今日もそうですが、20代等の若い層をどれだけ巻き込んでいけるか、重要だと思います。
- ・地域の行事を大切にしていきたいと思いました。

問9 その他、本日のワークショップに参加しての感想をお聞かせください。

- ・話が面白かった。
- ・有意義ありました。
- ・講師の先生の声が大きいので、眠くなったり飽きたりせずに、興味を持って集中する事ができた。
- ・中学校アンケートがとても参考になりました。
- ・今後の地区運営の参考にしたいと思います。
- ・コロナ以降、縮少した行事を続けて行くことが大事だと思った。縮少した行事を元通りか、それ以上に集まれるようになる事が、これから地域に必要な事だと思う。
- ・自治会での直会が正解だった。
- ・ワークショップ内の講話は面白い内容でした。まだ、現状と今後についての温度差があるなと感じた。
- ・色々な世代の方の意見や話を聞いてよかったです。子育て世代として未来のある子ども達のために、地域を守る活動をして行こうと感じた。
- ・とても有意義なワークショップでした。今後の地域のあり方を考えるきっかけになりました。
- ・今回、中学生のみのアンケート結果でしたが、高校生以上の結果もみてみたいです。年齢を重ねる事で現実を見ることになるので、将来的なビジョンが明らかになるのではと思います。
- ・大変参考になりました。今後も地域の為に何か出来ないか、考えていきたいと思います。

- ・声をかけ続け、誘いながら人とのつながりを増やしていく事に気づきました。今後の活動の参考になりました。
- ・良かったと思う！
- ・受け継がれてきた伝統を受けつぐことの重要性を認識しました。
- ・思っていた事と異なり、楽しく学ぶ事が出来ました。押しつけではなく、答えやすいような質問が良かった。
- ・自分は今まで参加した事がなかったので色々話を聞いてよかったです。
- ・グループ内での話し合いは新しい「つながり」となった。
- ・参考になる事が多かった。地域づくりについて、機会をとらえ考えてみたい。
- ・様々な年齢層の方が参加していて、昔の櫛引の様子を知ることができ、興味深かったです。
- ・自分が地元を離れても、戻ってくると安心感を得られるということは、先代（ご先祖様）が作り続けてきた貯金のおかげという事を再認識しました。
- ・先生の話が楽しかった。
- ・久しぶりの廣瀬先生のお話、とても良かった。廣瀬先生のお話は、公務員必見だと思います。ぜひ、櫛引の職員研修としてすべての職員から聴いていただきたい。社会教育（公民館・講座）に力を入れることが、まちづくりにつながるので実践していきたい。
- ・つながり、情がコミュニティ組織の原動力であり、類似性も重要であるならば組織が大きくなると、それが弱くなるのではないか。
- ・全国的に見てもこの櫛引は多くの行事があり、人と人のつながりが大切にされている地域だと思う。難しい事も多くあると思うが、これをつないでいくことが本当に大切だと感じた。
- ・コミュニティを考える入口として、大変良い機会となったと思う。
- ・熱く楽しい講師でした。勉強になりました。
- ・参加してよかったです。色々な人対象にワークショップで意見聽けるといいですね、大変ですけど。市長と語る会もこんな形の方がいいのでは？と思った。
- ・市職員として、市全体の動向にばかり目を向けており、自分の住んでいる地域への関心が低く貰ったと感じた。このワークショップを通して地域のこれからを考えるきっかけになった。
- ・中学生の多くが愛着を持っていることが嬉しかった。愛着を持っている中学生が櫛引に残り、櫛引の未来を担っていけるように、今後も考えていく事が大切だと思った。
- ・中学生のアンケートを基にコミュニティを検討できて良かった。そこで成果であったり、何か結果を出すという事があっても面白いかと思った。
- ・大変貴重な経験となりました。
- ・地域を見つめ直す、他の地区の人の考えを聞く良い機会でした。
- ・地域や人とのつながりの大切さを認識できて、とても良かったと思います。

